

特255

802

北支綿業事情報告

杉

道

助



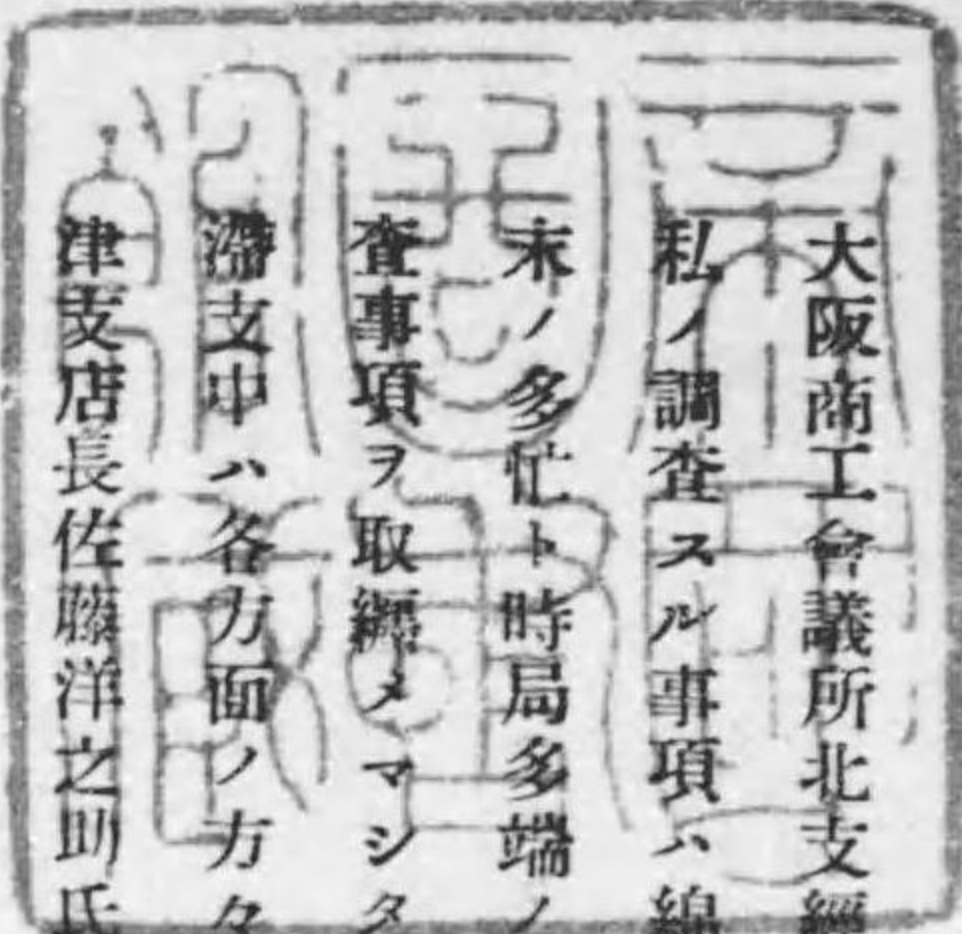
始



序

凡ル困苦缺乏ニ耐ユ奮戦セラル、
至誠純忠ナル皇軍ニ對シテ眞ニ感激ニ不堪
護國ノ英靈ニ對シ

謹而感謝ノ意ヲ表シマス



大阪商工會議所北支經濟視察員トシテ私ハ去ル十一月八日約三週間ノ旅程デ北支ニ出發致シマシタ。
私ノ調査スル事項ハ編業事情デアリマシタ。滯支僅十日程デ詳シイ又正確ナ調査モ出來カネ、且年
末ノ多忙ト時局多端ノ際當初ノ意氣込ミニ反シ所期ノ目的ヲ達シテ居ラヌ憾ミハアリマスガ兎モ角調
査事項ヲ取纏メマシタカラ編纂シタ次第デアリマス。

滯支中ハ各方面ノ方々大イニ御世話ニナリマシタガ特ニ本報告書ヲ作ルニ就テハ東洋棉花株式會社天
津支店長佐藤洋之助氏、日本棉花株式會社天津支店長飯塚重央氏、伊藤忠商事株式會社天津支店長横
山金吾氏、在華日本人紡績同業會天津支部長後藤綠郎氏公大紡績工場長福長永太郎氏、天津紡績公司
重役野呂彦太郎氏、滿鐵天津北支事務所坂田謙吉氏ノ方々ニ御繁忙中御配慮ヲ煩ハシテ調査ヲ願ツタ
リ、又調査資料ヲ頂戴シタリ容易ナラヌ御世話ニ預ツタ事ヲ茲ニ深ク感謝スル次第デアリマス、又北



支行ニ私ニ隨伴シタ阪口清太郎君ガ本報告書編輯ニ就テハ初カラ終リ迄大イニ助力シテ吳レタコトニ對シ厚ク謝意ヲ表ス。

私共ガ北支ニ參リマシタ時ハ占據占領地域ハ先ヅ平靜ニ復シ諸般ノ施設ハコレカラ着々進捗スル情勢ノ時デアリマシタカラ本書ガ上梓サレタ時分ニハ種々事情ガ變化シテ居ル事デアラウト思ヒマス。尙北支經濟事情ニ關シテハ民國側其他各方面カラ色々ノ統計ガ發表サレテ居リマスガ幾多見聞致シマシタ事實ト常識的ニ符節ヲ合シカネル點ガ多々アル様ニ思ハレマス。是レハ觀察ノ淺ク不充分ナルニ歸スルカモ知レマセンカラ諸賢ノ御叱正ト御垂示ヲ賜レバ幸甚ノ至リデアリマス。

昭和十二年十二月

杉 道 助 識

北支綿業事情報告

目次

緒言	一
第一章 棉花	八
第一節 北支五省耕作地ノ自然的條件	八
第二節 栽培法	一〇
(イ) 前作	(ロ) 整地
(ホ) 除草、中耕及間引	(ハ) 施肥
	(ニ) 播種
(ヘ) 摘心	(ト) 收花
第三節 五省耕作地面積ト收穫高及支那全土ニ於ケル地位	一三
第四節 北支棉ノ種別ト品質	一五
(イ) 河北省産棉	一五
A 西河區	一五
B 御河區	一五
C 東北河區	一五

(ロ) 山東省産棉……………一七

(ハ) 山西省産棉……………一八

第五節 北支棉從來ノ改良増産策ト將來ニ就テ……………一九

(イ) 棉作試験場ノ設置ニ就テ……………二〇

(ロ) 灌溉ノ便ヲ計ルコト……………二一

(ハ) 肥料ノ研究……………二二

(ニ) 繰棉及荷造工場ノ統制……………二三

(ホ) 合作社ノ發達ヲ計ルコト……………二三

(ヘ) 交通ノ便ヲ計ルコト……………二三

第六節 繰 棉 事 業……………二四

第七節 他ノ農作物トノ關係……………二四

第八節 集散地ト輸送機關……………二五

第九節 北支棉花輸移出入……………二七

第十節 從來ノ取引決濟法……………三一

第十一節 北支棉取引改善策……………三二

第十二節 北支棉ノ國內稅及輸移出入關稅……………三五

(一) 國內稅

輸出稅……………移出稅……………

輸入稅……………移入稅……………

第二章 北支ニ於ケル紡績工業……………三七

第一節 工場 分 布……………三七

第二節 綿糸及綿布生産高……………三九

第三節 支那ニ於ケル北支紡績工業ノ地位……………三九

第四節 工手、動力、石炭、水質量……………四一

A、工手

(イ) 能率 (ロ) 賃金 (ハ) 思想

B、動力 C、石炭 D、水質

第五節 統稅其他國內稅……………四八

第六節 北支紡績ノ製品並ニ其ノ販路……………四九

第七節	北支事變ノ紡織工業ニ與ヘタル影響ト其ノ恢復期	五〇
第三章	綿糸布並ニ人絹布貿易	五二
第一節	北支綿糸布貿易ト需給状態	五三
第二節	背後市場ヨリ見タ天津、青島	五五
第三節	冀、東、貿易	五七
第四節	北支關稅制度ト將來	五九

報告書内各調査統計表

第一表	北支三省棉花植付反別及産額累年表	一三
第二表	北支棉花作付反別及産額對全支比較累年表	一四
第三表	北支五省棉花及農作物一畝當リ收穫利益比較表 (一) (二)	二五
第四表	天津及青島港外棉輸入高累年表	二八
第五表	天津及青島港支那棉移入高累年表	二九
第六表	天津及青島港支那棉輸出高累年表	二九

第七表	北支棉花輸移出統計明細表	三〇
第八表	日支資本別紡績錘數概念表	三七
第九表	北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表	三九
第十表	"	三九
第十一表	"	三九
第十二表	北支三省綿糸及綿布出來高概略表	三九
第十三表	北支並ニ全支紡織工業概要及綿糸、綿布出來高表	四〇
第十四表	北支各地ニ於ケル井陘炭原價表	四六
第十五表	天津ニ於ケル水質分析表	四七
第十六表	北支ニ於ケル綿糸、綿布生産高概算表 (番手、品種別)	五〇
第十七表	北支各港綿布輸入高累年表	五三

緒言

我國ノ原棉自給策ト北支棉ノ將來

(本文ハ綿業時報へ投稿シタルモノヲ其儘本書ノ緒言トス)

我綿業ノ現状

我國ノ輸出貿易ニ於テ、綿糸布ノ地位ガ如何ニ重要ナルモノデアルカト謂フ事ニ就テハ、今更ラ議論ノ餘地ハナイノデアリマスガ、大体ノ概念ヲ得ル爲メニ綿業ノ貿易收支ヲ簡單ニ掲ゲテ見ルト棉花輸入金高ト綿糸布及ビ其他綿製品ノ輸出金高ハ我國ノ總輸出輸入金高ノ何レモ約三分ノ一ヲ占メ、且綿業輸出入ノ收支ハ大体平衡ヲ得テ一致シテキルノデアリマス。

故ニ、内地デ消費サレル綿糸布綿製品ノ原棉代ハ、結局海外ニ輸出サレル綿糸布綿製品ニ含まレテキル原棉代以外ノ加工賃ト利潤ニヨツテ稼ギ出サレテキルト見テヨイノデアリマス。尙之レヲ稍詳シク數字のニ述ベテ見ルト輸入棉花金高八億五千萬圓數量ニシテ約一千五百萬擔ノ内、内地ニテ消費サレル綿糸布綿製品ノ原料トナル約四割ノ六百萬擔、金額ニシテ約三億四千萬圓ガ殘餘約六割ノ原棉ヲ以テ生産シタ輸向綿糸布及綿製品ノ原棉代以外ノ加工賃及利潤ニ相當シテキルノデアリマス。

資源ニ乏シイ我國ニ於キマシテハコノ綿業ノ如キ加工貿易ヲ發展セシムル事ガ經國濟民ノ理想ニ合致シテ居ルノデアリマス。

ソコデ十數年前カラ我當業者ガ綿糸布ノ輸出ニ精進シテ綿業立國ヲ強調シ優秀ナル技術ト巧妙ナル商策トニヨツテ年ヲ追フテ全世界ノ市場ニ進出シ遂ニ世界綿業界ノ王座ヲ占ムルニ至ツタノデアリマス然ルニ其原料棉花ヲ全ク外國ニ依存シテキルト言フ事ガ外交上且又國際收支ノ上カラ極メテ不利益デアツテ若シモ原棉ヲ日本内地又ハ其經濟プロツク内カラ生産自給シ得タナラバ其利益タルヤ寔ニ測リ知ル可カラザルモノガアルノデアリマス。

支那事變ノ勃發ニ伴ツテ政府ハ先ヅ財政ノ安固ヲ期シ軍需資財ノ輸入ニ全力ヲ舉ゲル爲メ輸入ノ大宗棉花ノ輸入制限ヲ行ツテ非常時當面ノ經濟的措置ノ一端トシタノデアリマス。コレハ國際收支ノ適合ヲ計リ對外爲替維持上兎ニ角、一錢一圓ノ不急輸入ヲ節シ戰爭ノ遂行ヲ容易ナラシメル當然ノ措置ト思ヒマス。而シテ綿業ニ荷セラレタ使命ハ、原棉輸入ヲ抑制シテ極度ニ内地消費ヲ節約シ他面輸出ヲ確保増進セントスル極メテ困難ナル事業デアリマス。目下ノ非常時ニ於テ當業者ハ勿論官民一致シテ此ノ難關ヲ見事ニ突破スルダケノ覺悟ハ素ヨリ必要デアリ、必ズシモ不可能事デアリマセンガ此調整ス可カラザル矛盾撞着ヲ全然無碍ニ乗越ヘル事ハ出來難イノデアリマス。惟フニ今日ノ綿業統制ハカ、ツテ棉花ノ制限ニアリ若シコレガ長期ニ渡ルナラバ紡績ノ生産制限ニ依ツテ勢ヒ綿業ヲシテ衰微ノ淵ニ陥レル事ハ必條デアリ、期待スル輸出増進ニ幾何ノ効果アリヤ疑問ヲ懷カズニハ居ラレマセン。茲ニ於テ我々ハ先ヅ前ニ述ベマシタ通り綿業貿易ノ性質ヲ考ヘテ、其輸出ヲ伸張スル事ニ最大ノ目的ガ存スル以上、場合ニヨツテハ原棉輸入モ國策上其數量ヲ緩和増加シテ積極的ニ綿業貿易ヲ支持スル必要ガアルノデハナイカト考ヘテ居ルモノデアリマス。

我國ノ棉花自給策

現今我綿業プロツク内ニ於ケル紡績鍾數ハ内地ニ於テハ一千二百萬鍾、朝鮮二十萬鍾、滿洲二十六萬鍾、計約一千二百四十六萬鍾トナツテ居ル(從來ノ在支紡ハ事變中ニツキ之レヲ省ク)。コレニ對シテ所要棉花ハ事變前ノ操業狀態デハ内地ニ一千四百萬擔、朝鮮ニ七十萬擔、滿洲ニ八十萬擔、計一千五百五十萬擔デアリマス。然ルニコレガ所要棉花ハ全部海外ヨリノ輸入ニ仰イデ居リマシテ朝鮮ニ約四十五萬擔、滿洲ニ約二十五萬擔ノ生産アルノミデ鮮滿デサヘモ地場供給ハ困難ナ狀態デアリマス。事變後ノ棉花輸入統制ハ間ハズトシテ内地紡績所要ノ一千四百萬擔中、純内地消費ニ振當テラレル約四割ノ六百萬擔ガ我經濟プロツク内デ自給サレタナラバ一ケ年約三億圓以上國際借勘定ヲ輕減シ得ル事ニナル。言ヒ換ヘルト輸出ニヨル加工賃銀ヤ利潤ノ約三億餘圓ガ全部内地ニ殘留シテ綿業ノ繁榮ハ素ヨリ我國ノ國際收支ニ莫大ナル貢獻ヲスルノデアリマス。

我棉花政策ハ近キ將來ニ於テ右内地消費分丈ケ手近カナ我經濟フロツク内デ生産自給スル事ニ全力ヲ傾倒スベキデアリマス。

夙ニ朝鮮・滿洲ニ於テハ棉花ノ増産獎勵策ニ官民ノ膺心管ナラザルモノガアツタノデアリマスガ、朝鮮デハ自然的條件良好ナルモ耕地面積ニ惠マレズ、滿洲デハ自然的條件一段不良ナルガ爲メ夫レ夫レノ地場消費サヘモ滿スニ足ラズ滿洲デ六、七十萬擔、朝鮮デハ三、四十萬擔ノ不足ヲ海外ニ仰ガネバナラヌ現狀デアリマス。

結局我國從來ノ原棉自給策ハ理論ト計畫ニ終始スルノミデ實際問題トシテハ滿鮮ノ産棉ガ地場消費額ニ追ヒ付ク事ニ全幅ノ努力ヲ拂フ以上ニ出デズ依然トシテ内地紡績ノ糧道ハ百パーセント海外ニ依存シナケレバナラヌデアリマス。然ルニ今次ノ事變ハ北支ノ棉作ヲ我國棉花自給策ニ關聯セシムル重要ナル役割ヲ演ジ、折柄我國棉花統制ニヨル原棉不足ヲ逸早く北支棉ニヨツテ潤シ旁北支經濟工作ノ一助トセントスル一石二鳥ノ策ガ官民ノ一致シタル見解トナツテキルヨウナ次第デアリマス。

北支開發案ガ漸次具体化シテ北支棉花公司ノ設立、紡聯ノ北支棉輸入シンデケートノ成立、政府ハ北支棉二十五萬擔ヲ十三年一月末迄ニ輸入ノ許可等何レモ恒久、當面ニ亘ツテ我國綿花政策ニ新分野ヲ開拓シ日滿鮮フロツク内デドウニモナラヌ棉花政策ハ北支ノ登場デ解決ノ端緒ヲ見出シタモノト信ジテキルノデアリマス。

北支棉花ノ將來

北支ノ棉作地帯ハ北京ヲ頂點トシテ青島ト西安ヲ結ブ三角形ノ地域即チ河北省、山東省ノ殆んど全部ト山西省ノ南部ヲ包含シテキルデアリマス。此地帯ハ氣候風土概シテ棉作ニ適シ滿鮮ヨリハ遙カニ秀レテキルノミナラズ世界的ニモ著シク自然的條件ニ惠マレテキルノハ衆知ノ事實デアリマス。昨年度ノ此地帯棉花收穫高ハ四百八十萬擔全支ノ一千四百四十萬擔ノ三分ノ一ニ當リ四、五年來ノ増産率ハ濶目ニ値スルモノガアリマス。

コレハ國民政府並ニ日支官民ノ積極的植棉政策ト棉作ガ他ノ農作ニ比シ著シク收益率ノ大ナル事ニ因由シテキルノデアアルマシテ耕作面積ハ連年顯著ナル擴大ヲ示シテ居リマス。

耕作棉種ハ從來、在來種ガ主デアリマシタガ最近ハ米棉種ガ非常ニ適シテキル處カラ産額ノ六、七割迄ハコノ米棉種デアツテ然モ生産費ハアメリカヨリ概シテ安イノデアリマス。

然シ乍ラ北支ノ棉花栽培法ハ今ノ處デハ決シテ集約的合理耕法ヲ行ツテキルトハ言ヒ得ナイ、極メテ原始的耕法デアリマシテ疎植デ人造肥料ヲ用ヒズ且灌溉ノ便薄ク、全ク自然力ニ委セテキルノデアアルカラ年々豊凶ノ差ガ特ニ甚シイノデアリマス。

故ニ今後蒙昧ナル農民ヲ適當ニ指導獎勵スレバ増産ハ敢テ難事ニアラズ少クトモ前記我國内消費分ノ

原棉供給ハ易々タルモノト信ズルノデアリマス。栽培法ノ改善ニ就テハ

(イ) 一大中央棉作試験場ト各地域ニ分場ヲ設置シテ自然的條件ニ多少ノ相違アル地方々々ニ特有ノ耕法ト棉種ノ選別ヲ行ヒ

(ロ) 灌漑ノ便ヲ講ジ

(ハ) 肥料ノ研究

(ニ) 繰棉及ビ荷造リ工場ノ統制

(ホ) 合作社ノ改善發達ヲ計リ金融、運輸、貯藏ノ合理化ト援助ヲナシ

(ヘ) 交通ノ利便ヲ計ル事

等幾多ノ方策ガアルノデアリマス。

尙又取引所ノ新設検査機關ノ完備ヲ計リ、棉花ヲヨリ商品化セシムルナレバ現在ロット、ロット、デ品質ヲ異ニスル受渡上ノ不利、不便ヲ除去シ先物取引ヲ安定シ得ルト思フノデアリマス。

不幸ニシテ本年ノ棉作ハ事變ト水害ニヨツテ北支三省産棉ハ三百萬擔ヲ下廻ルトノ豫想デ來年度モ水害ノ惡影響ヲ持越ス懸念ガ多分ニアリマスガ近キ將來ニハ一千萬擔即チ昨年度産額ノ約倍額ニ引上グル事ハ左程困難ヲ伴ハナイト思ヒマス。

次ニ北支ノ紡績ハ現在百五萬鍾、尤モ此内青島紡ガ山東軍ノ暴舉デ全滅ノ悲運ニ遭遇シタガ、將來二

百萬鍾ト見込ンデ約四百萬擔地場消費スルトシテモ約六百萬擔ノ剩餘棉ハ内地ヘ引取得ル可能性ガアルノデアリマス。

結

論

要スルニ兩三年内ニ北支産棉ヲ一千萬擔ニ増産ノ計畫ハ充分實現ノ可能性アリト思ハレルガ應急策トシテ現在ノ豫想出廻リ棉中ヨリ約一百萬擔ヲ積極的ニ内地ヘ買取ル事ヲ要望スルノデアリマス。且又恒久策トシテモ北支棉ノ購入ハ準内地扱ヒトシ、爲替管理法令ノ適用ト輸入統制ニ對シ當局ノ手加減アツテ然ル可キモノト思フ、若シ北支ガ名實共ニ純然タル外國デアツテ、我勢力外ノ通貨デ取引シナクレバナラストスレバ何モ北支ノ棉花ニ依存スル必要ハアリマセン。最近ノ北支政權確立ニ伴ヒ中國聯合準備銀行ヲ設立シ通貨問題ノ解決近キニアルハ我國棉花政策上ニモ大イニ寄與スルモノト思ヒマス北支ノ農民ハ總人口ノ七十パーセントヨリ八十五パーセントヲ占メ棉作以外ハ殆ド小麥、粟、大豆、高粱、其他ノ穀物食料品ヲ農作シテ居リ是レヲ以テ尙北支ノ食料問題ハ解決シテキナイノデアリマス。北支ニハ無盡藏ノ礦物資源アリト言ハレテキルガ何ト言ツテモ現在農業國デアラカラ植棉政策ハ一般農業政策ト不可分ノ關係アリ北支カラ見タ北支ヲモヨク檢討スル必要ガアルト思フノデアリマス。

第一章 棉花

第一節 北支五省耕作地ノ自然的條件

棉花栽培ノ地域決定ハ、自然的要素トシテ氣溫、降水量及地勢（海拔、高度）ガ其ノ主ナモノデア
アル。

棉花ハ其ノ栽培期間ノ六、七月ニ亘ツテ華氏六十度以上ヲ要スル事ハ周知ノコトデア
ルガ、此ノ溫度ヲ決定スル最大ノ條件ハ、緯度並ニ海拔高度ノ如何デア
ラウ。

北支ノ棉作區域ハ、北緯三十五度前後カラ四十度ノ間ニ位シ、海岸線ニ比較的近イ河北平野ハ、北緯四十度ヲ越ヘテモ尙ホ棉作ニ適シ、世界ニ於ケル最北棉作地帯デア
ルガ、太行山脈ヲ越ヘテ山西省ニ入レバ太原盆地トナリ高度海拔八百米ヲ越ヘ、其ノ條件ハ著シク不利トナル。即チ河北平野ノ東北部並ニ黃河ヲ渭水ニ延長サセル線ニ接近スル地帯ハ、降水量比較的多ク、河北省ノ西部及太原盆地ヲ北上スルニ從ヒ、次第ニ其ノ量ヲ減ジテキル。

尙ホ棉作ノ適否ヲ決定スル條件トシテ、日照、蒸發量、土壤ノ構成等各種自然要素ニツイテ、綜合的ニ考察スルコトハ勿論必要デア
ルガ、氣溫、降水量ガ好適ナラバ、土壤ノ如何ハ栽培法ノ工夫ニヨリ

テ緩和シ得ラレルモノデア
リ、日照蒸發ハ氣溫ノ附隨的要素ト見做スコトモ出來ルノデア
ル。尙ホ降水量ト關聯シテ、絶對ニ作物ノ生死ヲ制スル地下水ノ問題ニツイテ一考ヲ加ヘレバ河北平野及黃河、汾河ノ本支流域ハ、何レモ沖積層デア
ルガ察哈爾、綏遠、山西ニハ黃土層ガ多ク存在シテ居ル。コノ場合、平原地帯ハ河水又ハ地下水ノ利用ニ依ツテ、其ノ被害ヲ免レルノデア
ルガ、高原地帯ハ、河水ノ利用ハ素ヨリ、地下水モ深ク利用スルコトガ困難デ、所謂飢饉地帯トナルノデア
ル。

察哈爾、綏遠、山西ノ北部ハ、氣候著シク高原性ヲ帶ビ、降雨ノ過少ト關聯シテ、棉作ハ適地トハ言ヒ難イ。

太原ヲ中心トスル太原盆地ハ尙ホ棉作ニ不適當トハ言ヘナイガ初霜、晚霜ノタメニ其ノ生育ヲ脅サレル危険ガ多イカラ「キングス」系早熟種或ハ在來種ノ栽培地帯トナツテ居ル。

概括シテ北支ノ主要ナ棉作地トシテ、現在並ニ將來性ノアル地帯ハ、北京ヲ頂點トシテ青島、西安ヲ結ブ線ヲ底邊トスル三角地帯ニ包括セラレルモノト見ルコトガ出來ル。此ノ區間ハ黃河、汾河、子牙河、滹沱河、永定河其ノ他多クノ河流ニ沿ヒ、灌溉ノ便ガアルバカリデナク、肥沃ナ沖積層ト、豊富な地下水ガアリ、氣象要素ニ惠マレ、理想的ナ棉作地帯ト言フコトガ出來ル、又鹹地、窪地ガ點在シテ、水災ノ脅威ヲ受ケル地域ガ少イ。

山東省ハ、土質概ネ砂質デ、時ニ旱害或ハ黃河ノ氾濫ヲ被ムル事ガアルガ、氣候トシテ、棉作ニ適シ

テ居ルコトハ多ク言フヲ要シナイコトデアル。

第二節 栽培法

(イ) 前作

棉花ノ作付面積ハ、近來特ニ擴張サレテ、其ノ多キハ、全耕地ノ九十%以上ニ及ブ地方ガアリ、從ツテ農地ノ轉換、輪作ハ不可能ナ場合ガ多イ。而カモ現在デハ棉作ノ好適セル白土地ハ、殆ド棉花ヲ以テ埋メラレ、棉作ニ不適當ナ紅土地、黒土地ガ穀作地トシテ殘サレテ居ル状態デアル。

幸ニ棉作ハ連作ヲ忌ム事小ク、多少其ノ生育ハ劣ルガ棉花ノ品質ハ却ツテ連作ニヨツテ向上スル傾向ガアル。

一般ニ穀作地ヲ棉作地ニ轉換スル場合ハ、前作ヲ粟トスルモノガ多イ。之ハ粟ノ強イ根ノ吸收力ニ依ツテ、地力ヲ著シク疲勞セシメ、殊ニ粟ハ高粱、大豆ニ較ベテ秋ノ收穫ガ早クテ、休閒ノ期間ガ長ク土壤ヲ一層轉鬆サセルニ依ルカラデアル。

(ロ) 整地

棉作地ハ多ク連作デアル爲メ、前年秋棉花ノ收穫後、莖桿ヲ拔キ、肥料ヲ施シタ後ヲ耕シ、耘ヲ掛ケテ土塊ヲ碎キ、土地ヲ鎮壓シテ翌春ヲ待ツノデアル、ソシテ翌春陽歷三月初メノ解氷期ニナレバ

耘ヲ掛ケテ土ヲ膨軟ニシ播種ノ準備作業ヲ行フ。

(ハ) 施肥

肥料ノ主ナモノハ土糞、大豆粕、胡麻粕等デ、施肥期ハ普通秋耕ノ際施スガ、時ニ春季耘ヲ掛ケル前ニ施スコトモアル。秋季施肥シタモノハ、良ク腐熟シ、土地ニ吸收サレテ居ルカラ、棉ノ發芽後直チニ肥効ヲ奏シ、生長期ニナツテハ、漸ク肥効ガ衰へ、而カモコレガ却ツテ成熟作用ヲ促進サスノデアル。

(ニ) 播種

播種ハ年ニ依リ又雨濕ノ都合ニ依リ早晚ガアルガ、一般ニ穀雨（四月廿日頃）直後行フ。從前ハ晚播キデアツタガ近年ハ穀雨ヲ過ギルト播種季節ニスル様ニナツタ。但シ餘リ早イ時ハ、風ト寒氣ニ遇ヒ、幼苗ヲ萎縮サセ、生長ヲ阻害スルバカリデナク、晚播キノモノヨリ、一般ニ發芽後ノ成長ガ不齊デ、主枝ノ節間ガ接近スル傾向ガアル。播種量ハ米棉種、在來種共一畝（約二百坪）六斤位デア。農家ハ農學ノ智識ガ一般ニ乏シク、選種ヲ餘リ行ハナイノデ米棉種ノ畑ニモ依然トシテ在來棉ガ混植セラレテ居ル状態デアル。種子ハ適濕ナレバ晚播キ程地温ノ上昇ニ依ツテ發芽日數ガ短縮サレル播種後乾燥ノ甚シイ時ハ浸漬セル種子デアルカラ、屢々枯死、腐敗スルコトニナリ、陰雨久シキニ亘ル場合モ亦同様ノ結果ヲモタラス。強雨ニ遭フ時ハ、表土ヲ固結サセテ發芽ヲ困難ナラシメ又「アル

カリ性」ノ強イ土壤ハ幼苗ヲ枯死サセルコトガアツテ之等ハ何レモ欠苗ノ原因トナル。

(ホ) 除草、中耕及間引

右ハ棉花ノ生育期間中、最モ勞力ヲ費シ又一番大切ナ作業デアル。

(ハ) 摘心

摘心ハ在來棉ニハ行ハナイモノモアルガ、晩熟ナ米棉種ニハ、極メテ必要ナ作業デアル。摘心トハ、主枝ノ或ル程度マデ伸ビタ時、心ヲ摘ミ取り、側枝ノ發達ヲ促スモノデ、更ニ側枝ノ摘心ヲ行ツテ不完全ナ芽ヲ除キ、花蕾ヲ育テ、カメテ成熟作用ヲ助長サセル。新開地、或ハ紅土地、黑土地等ノ低濕ナ土地デハ、之ヲ行ハナイト到底充分ナ成績ヲ舉ゲルコトガ出來ナイ。

(ト) 收花

棉花ノ收穫ハ、年ニ依リ一樣ニハ行カナイガ、普通八月下旬カラ九月上旬ニカケテ第一回ヲ行ヒ以後一週間乃至十日目位毎ニ晴天ノ日ヲ撰ビ露ノ乾イタ後婦女子ノ手デ採取スル。在來棉ハ、成熟ガ早イタメ收穫日ヲ米棉種ヨリ早メテ普通五、六日オキニ行フノデアル。

第三節 五省耕作地面積ト收穫高及支那全土ニ於ケル地位

北支五省ノ耕作地面積ト收穫高ハ、累年表ニ本年度收穫豫想ヲモ加ヘ一覽表トシタ。(第一表)

第一表 北支三省棉花植付反別及産額累年表

年次	河北省		山東省		山西省	
	植付反別 (支畝)	産額 (擔)	植付反別 (支畝)	産額 (擔)	植付反別 (支畝)	産額 (擔)
一九三二	五、四四、一五五	一、三三、三九九	六、八四、一六六	一、七九、三五四	三〇、一五〇	五、五、九三
一九三三	六、二二、九七一	一、四四、九三三	五、三三、三三三	一、四六、九三三	一、三〇、七六一	五、〇、一五
一九三四	七、八七、四四三	二、八六、一七三	五、四三、三三三	一、三三、〇五五	一、七九、三六〇	六、〇、〇〇
一九三五	六、三三、九〇〇	二、二六、四七七	一、八〇、一三七	四〇、七、二二五	一、七〇、七九〇	三、五、五五
一九三六	一〇、四〇、六四四	三、四一、五〇〇	五、八七、〇〇〇	一、六〇、三九九	一、六〇、〇〇〇	三、〇、〇〇
一九三七	豫想 一三、〇〇、〇〇〇	一、五五、〇〇〇	七、三六、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	—	—

備考 東洋棉花會社ハ最初河北省本年度第一回收穫豫想三、六七、〇〇〇擔ト發表セシモ棉産地帯ニ於ケル戰禍被害、同地域ニ於ケルハ、九月ノ中未曾有ノ洪水被害甚大ナル結果、最初豫想ヨリ約五十五%減ノ一、六五五、〇〇〇擔ヲ見積リタリ

山東省本年度東洋棉花會社收穫豫想ハ最初本年七月二七萬餘擔ノ見積リナルガ今次事變及洪水被害等ノ結果河北省ト略同様最初豫想ヨリ四〇%減即一、三六二、〇〇〇擔ヲ見積リタリ

山西省ハ例年作付反別及産額ハ他ノ省ニ比シ微々タルモノニテ本年度ハ、今次戰禍被害ノ爲農民避難スル者多ク且摘取算甚シク遅延シ殆ンド問題トナラヌ事ト思ハル

第二表 北支棉花作付反別及産額對全支比較表

年次	全支		北支		支		三		省	
	作付反別(支數)	産額(擔)	作付反別(支數)	一畝當り(斤)	對全支百分比	産額(擔)	對全支百分比	一畝當り		
一九三一	三、三三七、七九	六、三九九、七八〇	二、二七五、九七二	三三、六	三、〇〇〇、八一〇	四八、一	二七、三			
一九三二	三、〇九九、八〇〇	八、〇五、三三七	三、二六九、三三三	三三、一	三、〇〇六、四四四	三六、三	二五、三			
一九三三	四、〇四四、〇三三	九、七四一、七〇七	三、七〇〇、〇六七	三三、六	三、四六六、三五六	三三、〇	二六、六			
一九三四	四、九七一、三六四	一一、〇〇一、九九七	二、五九七、〇六四	三三、六	四、七二一、二七六	四三、六	三三、六			
一九三五	三、四九九、二二二	八、二七七、六八八	九、八五五、〇〇九	二六、三	二、八六六、二五四	三三、五	三〇、八			
一九三六	五、一五三、〇〇〇	一四、八四〇、〇〇〇	一七、一〇五、〇〇〇	三三、三	四、八〇〇、〇〇〇	三三、五				
一九三七										

右ニ依リ明ラカナルガ如ク其ノ栽培面積及産額ニ於テ全支ノ約三分ノ一以上ヲ占メ、單位面積生産力ニ於テハ北支ガ優位シテ今後ノ北支開發進展策ト共ニ其ノ面積及産額者棉作上全支ノ半、若シクハソレ以上ノ位置ニ達スルモノト考ヘラレル。

更ラニ品質ニ就テハ其ノ優良サニ於テ斷然他地方ヲ抜き、米棉種ノ栽培ハ殆ンド北支ニ限ラレ紡績用中番手棉代用品トシテ用ヒラレテ居ル状態デアアル。

第四節 北支棉ノ種別ト品質

北支棉ヲ各省別ニ區分スルト左ノ通りデアアル。

- (イ) 河北省
- (ロ) 山東省
- (ハ) 山西省

(イ) 河北省産棉

河北省ニ於ケル棉産地域ハ、大體北緯三六度カラ四〇度ニ亘リ、一九三五年迄ノ過去五ケ年間ノ平均作付反別三百六十萬支畝ニ達シ、北支棉花作付反別ノ約一割五歩ヲ占メテキル。棉産區ハ大體左ノ通りデアアル。

- (A) 西河區
- (B) 御河區
- (C) 東北河區

天津西部カラ南部ニ亘ル上西河(大清河)、中西河(滹沱河)、下西河(滏陽河)ノ流域ヲ包含スル地域ヲ總稱シタモノデ、從來カラ河北省産棉ノ約六割ヲ占メル主要ナ産地デアアル。

此ノ地域ノ棉花ハ、往年ハ主トシテ、所謂西河棉ト言ハレル色純白、毛筋粗硬且ツ精々半吋ノ短纖維ノ在來棉ヲ産シタノデアアルガ、在支紡績業ノ發達ニ伴ヒ、米棉種ノ移植ガ漸増シ、近來特ニソノ傾向ガ著シクナツテ來タ。在來種ハ上記ノ様ナ特質ガアル爲メ、紡績用混棉トシテハ不適當デ、蒲團棉、

中入棉、棉火藥、或ハ綿毛混織用等、紡績以外ノ特殊ノ用途ニ適シ、古クカラ日本及歐米向ニ、毎年三十萬擔乃至六十萬擔餘ノ輸出ガアツタ。但シ天津ニ於ケル紡績工場デハ、西河棉ノウチ、下西河區デ産スル比較的毛筋ノ柔イモノヲ、十六番手以下ノ、太番手用混棉トシテ使用シテ居ル。

(B) 御 河 區

山東省境ニ接シタ河北省ノ一部、黃河以北ノ津浦沿線地方、即チ南運河(御河)ニ沿フ一帶ノ棉産地ヲ指シタモノデアル。此ノ地域ニ産スルモノハ、西河在來種ト似テキルガ、毛筋稍柔軟、且二分一吋カラ、八分ノ五吋見當デアル。西河棉ニ比ベテ心持長イタメ、太番手用ニ適シテキル。御河米棉種ハ、其ノ産額在來種ヲ遙ニ凌駕シ、紡績用中番手米棉代用品トシテ用ヒラレテアルモノモアリ、等級ハ米棉「ミツドリリング」ヨリ「ストリクト」、ミツドリリング」ニ匹敵シ、纖維八分ノ七吋カラ一吋ニ及ブモノガアル。

(C) 東 北 河 區

天津ヲ東北ニ去ル二百五十支里、胥各莊ヲ中心トシタ冀東政府地區附近及天津附近ノ楊村地方ヲ指スモノデ、主トシテ米棉種ガ栽培セラレ、古クカラ毛筋物産地トシテ有名デアル。以上ノ外、最近數年來、大清河以北ノ京漢沿線及永定河流域並ニ北京、通州、南苑附近ノ地方ニ、米棉種ノ移植ガ急激ニ發達シ來タリ、品質ガ優良デアタルタメ各方面カラ其ノ將來ヲ囑目セラレル様ニナツタ。

南苑棉、霸州棉等ノ優良棉ハ、河北省特別棉ノ名稱ガアツテ等級ハ米棉「ストリクト」、ミツドリリング」デ纖維一吋以上ノモノガアツテ、紡績ノ中番手用即チ四十二番手、三十番手等ニ供セラレテキル。

(ロ) 山 東 省 産 棉

山東省ノ棉作地帯ハ、大體北緯三十五度カラ三十八度ノ間デ、土質概ネ砂質、旱害或ハ黃河氾濫等ノ被害ヲ見ルコトハアルガ、氣候ハ棉作ニ好適デアアル。山東棉ハ之ヲ大別シテ米棉種及在來種ノ二ツト見ルコトガ出來、米棉種即外國種ハ長絨デ、等級ハ「ストリクト」、ミツドリリング」ニ匹敵シ、纖維八分ノ七吋カラ十六分ノ十五吋或ハ一吋ニ及ビ、各省産棉中、河北省特別米棉ト共ニ北支中ノ優良棉ト云ハレ、二十番手カラ三十二番手ノ紡出原棉トナルデアアル。強力ハ稍劣ルガ長サハ印棉「ブロット」ニ比シ優ルトモ劣ラナイ。

次ギニ在來種ハ色ハ純白デアアルガ、毛足粗短、長サ四分三吋以下二分ノ一吋内外デ、最上ノモノハ濱州棉ト云ハレ二〇番手、十六番手紡出ノ混棉ニ適シ、廣平棉、吳橋棉、威縣棉等ハ十二番手、十六番手紡出ノ原棉トナル。日本向製棉用ニ歡迎セラレルモノハ此ノ種ノ棉デ、比較的毛筋ガ短ク、硬イノヲ適品トシテ居ル。天津西河棉ヨリモ色澤ガ劣ヘテ居ルガ、短剛ノ點デハコレニ及バナイ。山東粗毛ノ下級品ハ、略印度棉ノ「ベンゴール」「シンド」「アッサム」ニ比スベク、總ジテ山東棉ハ、其ノ

外來棉ト在來棉トヲ不問、色ノ純白デアルノヲ特徴トシ、青島紡績製品ノ色ガ白イノハコノ爲メデア
ル。

「トライス棉」又ハ「トリス棉」ト稱セラレル外來棉ハ纖維一吋内外ノ細纖維移植棉デ、四十二番手
ノ中番手ニ紡出セラレ、現在北支デ陸地棉ノ大部分ハ、此ノ品種又ハソノ系統デア
ル。

尙ホ「キングス、インブルード」ハ

一、青島ニ於ケル紡績業者ノ手ヲ經タモノ

二、我邦商人又ハ企業家ノ手ヲ經タモノ

三、北支官憲ノ手ヲ經タモノ

ガアルガ、何レモ朝鮮ニ栽培セラレツツアル「キングス、インブルード」ノ種子デ、右ノ兩棉種ト
モ、纖維長度カラ早テ、故意ニ粗絨ヲ混入シナイ限り、三十二番手カラ四十二番手迄ノ中番手用原棉
トシテ、紡出ガ出來ル。

(ハ) 山西省産棉

山西棉作地ハ、北緯三十五度以北ニ位シシ汾河中央部ヲ從貫シ、西南ハ黃河ニ圍繞セラレ、主ト
シテ兩河ノ流域地方ニ行ハレテ居ル。山西省ノ棉作ハ、最近發達シタモノデ、米棉種ノ栽培ハ、在來

種ノ遙カ上ニアルガ、産額ハ前二省ニ遠ク及バナイ。之レヲ要スルニ世界優良棉ノ品質ハ、海島棉及
埃及棉デア
ルガ、之ハ北支ニハ望ミガナク、先ヅ一吋乃至一吋八分ノ一程度デ北支棉ノ最上トシテ滿
足セバナラヌト思ハレル。

更ニ、紡績業者ノ見タ北支棉ノ缺點ヲ附言スレバ

(一) 未熟棉ノ混入アルコト

(二) 纖維ガ脆弱デ疲レガ早ク、落棉率ノ多イコト

デア
ル。纖維脆弱デ、落棉ノ多イノハ即未熟棉ノ混入ガ多イト云フコトデア
ツテ、此ノ點紡績ノ満足
ヲ得ル方法ハ栽培法ノ改良ニヨツテ早熟棉種ヲ増加セシムルヨリ他ニ途ガナイ。

第五節 北支棉從來ノ改良増産策ト將來ニ就テ

支那ニ於ケル紡績業ノ發達ニ連レ、且又棉花ニ對スル需要ノ激増セルニ加ヘ、近年數次ニ及ブ棉
花輸入税ノ引上ゲニヨリ、支那ニ於ケル棉花ハ他ノ作物ニ較ベルト、遙ニ有利トナツテ來タ爲メ、逐
年増産ヲ見ル様ニナツタ。

由來支那農民ハ、因循、頑迷ナ性質ヲ持ツテキルニ不拘、打算ニハ頗ル鋭敏ナ處ガアリ、棉作ガ有利
ト知レバ、直チニ棉作ニ移ルノニ躊躇シナイ。

元來北支ニ於ケル農民ハ、自給自足ヲ原則トシテ居ルガ、或ル地方デハ棉作ノ有利ナ爲メ、商品作物デアル棉花ニ主力ヲ注ギ、自分ノ食料不足ハ棉花販賣ニ依テ得タ代金デ、必要ナ食料ヲ求メルト言フ風ニ變ツテ來タ。若シ棉花ガ、今後モ引續イテ好値ヲ保ツテキタラ、右ニ述ベタ様ナコトガ、漸次擴大シテ、一般農民ノ經濟狀態ニ新ナ局面ガ展開サレル様ニナラウ。

且又棉花栽培法及ビ肥料ノ研究、合作社ノ發達ヲ計ルコト等ニ依ツテコレガ、飛躍的増産モ敢テ難事デハアルマイ。外務省ノ太原囑託ガ、廿ケ年計畫ヲ以テ河北省、山東省産棉額ヲ一五〇〇萬擔トスル計畫ヲ樹テタコト及國民政府ガ北支、中支ノ棉作ヲ十ケ年ニ三倍トシ對日一千萬擔ノ輸出ニヨリ國際收支ノ好轉ヲ計ラントスル計畫ヲモツテ居タコトモ充分實現ノ可能性アルモノト信ゼラレル。

棉作助成ニ關スル改良増産額

(イ) 棉作試驗場ノ設置ニツイテ

北支棉作助成ニ關シテ、現在河北省内ニハハケ所、山東省内ニハ七ケ所、山西省内ニハ一ケ所ノ棉花研究ニ關スル機關ガアルガ、土壤、地勢、氣候ノ複雑ナル北支地帯デ、或一定ノ棉種ヲ普及サセルコトハ當ヲ得タモノデハナイ。

故ニ一大中央棉作試驗場ヲ設立スルト共ニ、重要棉産地ニ分場ヲ設ケ、研究ノ統合ヲ計ラネバナラヌ。例ヘバ米棉種、在來棉ハ各適地ニ應ジテ夫々獎勵指導ノ方法ヲ取ル事ガ必要デアアル。需要者

デアアル紡績ノ立場カラ考ヘテ見レバ單ニ長纖維ノ棉種ノミノ増産ヲ計ルコトハ却ツテ不便ヲ感ズルトコロガアツテ、太番手ノ生産ニ必要ナル印度棉代用ノ棉種栽培ニ留意ヲ要スルト思フ。

殊ニ河北省デハ從來米棉種カ纖維粗硬ナ在來棉ノ外、變ツタ棉種ナク、二十番手、十六番手ノ綿糸ノ原料トナル可キ棉種ニ缺ケテキル不便ガアル。ソレ故米棉種ノ獎勵ト同時ニ太番手ノ材料トナルベキ在來棉種系ノモノヲ選ブ研究モ緊張ナコトデアアル。ソシテ中央試驗場ハ棉作指導員ヲ養成シテ後ニ述ベル合作社トノ連絡ニ當ラシメネバナラヌ。

(ロ) 灌溉ノ便ヲ計ルコト

北支ニ於テ棉作上一大缺點トスル所ハ春季播種時前後ニ降雨量ノ稀少ナ事デアアル。一般農民ハ自然カヲ俟ツテキル狀態デアルガ萬一非常ナ旱魃ニ遭ヘバ播種シテモ發芽セズ、タトヘ發芽シテモ發育不良或ハ全ク播種不可能ニ終ル場合ガ屢々アル。コノ様ニ自然力ニ依頼スル事ハ甚ダ危険デアルカラ、井水ヲ利用スルコトハ必要デアアル。

勿論或ル地方デハ相當井水ヲ利用シテ居ル所モアルガ、全般的ニ見テマダ廣ク普及シテ居テヌ。貧農ノ多イ北支デ自力デ井戸堀ヲ強ユル事ハ困難デアルカラ、低利ノ資金ヲ融通スル途ヲ講ジテヤル必要ガアル。

尙ホ河川ヲ利用シテ利水ノ便ヲ講ズルコトガ緊要デアアル。

(ハ) 肥料ノ研究

二三

各試験場ヲ視察スルニ、肥料ノ研究ガ不十分ナ嫌ヒガアル。一般農民ハ主トシテ、土糞ノ肥料ヲ使用シテキル現状デアルガ、各試験場デソノ地方ノ土地ニ應ジ適當ナ肥料ヲ研究シ、之レノ使用ヲ普及スル事ニ努メル必要ガアル。尤モコノタメニナルベク安價ナ費用デ得ラレル様側面的援助ヲ與ヘル機關ヲ設ケル必要ガアル。

(ニ) 繰棉及荷造工場ノ統制

繰棉ハ農民自家ニテ行フ場合ト、繰棉業者又ハ奥地棉店デ行フ場合トアルガ、繰棉ニ際シ米棉種ト在來種トヲ混ジ、或ハ棉實其他ノ夾雜物ヲ混入シ更ラニ打水シテ斤量ヲゴマカス等ノ不正行爲ガ行ハレルノガ普通ニナツテ居ル爲メ品質ヲ著シク低下スル。若シコノ様ナ不正行爲ガナケレバ、當然好相場デ買ハレルモノガ結局低下シタ相場シカ通ラヌ事ニナル。尙ホ奥地棉店デ半價依ニ締メ上ゲル際ニモ前述ノ様ナ不正行爲ガ行ハレル。之等ハ個々ノ業者ニ處理ガ任サレテキル事モ原因スルノデ、若シ繰棉荷造工場ヲ或ル統制下ニヤルコトニスレバ著シク改善セラレ、品質ノ均等及優良品等モ或程度迄期待出來ル事ニナリ、同時ニ好値デ取引セラレ、結局農民ノ利益トナル譯デアアル。尙ホ此ノ取締ノ便宜上締上ゲノ依面ニ各縣ノ工場縣名ヲ打印サセ、善惡トモ容易ニ追及出來ル仕組ニスル必要ガアル。

(ホ) 合作社ノ發達ヲ計ルコト

國民政府ハ、全支ノ農業助成指導ノ目的ヲ以テ、民國十五年頃カラ、積極的ニ、農村ニ合作社ノ振興發達ヲ計リ、現在北支ニハ、約六千二百ノ合作社ト、十三萬五千餘ノ社員數ヲ擁シテ居ルガ、其ノ六、七割ハ内地ノ所謂信用組合ニ類シ、尙ホ其ノ多クハ支那銀行團ノ農村救済ノ名ノ下ニ、營利事業ノ手段トシテ利用サレテキルニ過ギナイ。且又政府ハ此ノ施設ヲ通ジテ排日抗日宣傳ヲ爲シタ事實ガアルカラ、將來此ノ合作社ヲ根本的ニ改組シテ金融、運輸、保管、繰棉等ノ事業ヲ行フト同時ニ、棉作ノ技術的指導機關トシ、各棉作試驗場ト緊密ナル連絡ヲ採ラシメルコトガ必要デアアル。

(ヘ) 交通ノ便ヲ計ルコト

奥地産地ヨリノ棉花輸送ハ、鐵道ノ便アル地方ハ鐵道デ天津ニ輸送サレルガ、出廻リ最盛期ニハ、貨車ノ配給ガ不十分ナト運賃ガ高イ爲メ、河川ヲ利用シテ民船デ運送サレルモノガ多イ。民船ニ依ル時ハ、運賃ハ鐵道ノ約半額デアアルガ輸送日數ハ産地ノ遠近ニヨリ五日乃至十日間ヲ要スル。併シ冬季ハ各河川ガ氷結シテ民船ニ依ル輸送ハ十二月半カラ翌年二月一杯位ハ朴絶スル故、皆河川氷結前多數ノ出荷ヲシヨウトスルノデ十二月廿日位迄ノ出廻リハ總輸出高ノ約七割以上ニナルノガ普通デアアル。最近奥地ノ自動車道路ガ開ケ、以前ニ比ベルト餘程便利ニナツタガマダ各地ニ不及、且多クハ旅客ノ輸送ニ止マリ貨物運搬ニハ及ンデキナイ。モシ自動車道路ガ發達シテ貨物ノ輸送ニ迄進ンダナラ、從來汽車又ハ民船ニヨツテサヘ不便デアツタ地方ノ棉花ノ出廻リヲ促進スル事モ出來

第三表

北支五省棉花及農作物一畝當り收利

(1)

品名	摘	要	収入
棉花 (米棉種)	<p>収入ノ部</p> <p>繰棉22.50 棉實2.70 棉桿0.60</p> <p>支出ノ部</p> <p>小作料5.00 公課1.00 種子0.40 肥料4.00 整地0.80 施肥及播種1.20 間引1.20 中耕除草1.20 摘心.60 收穫1.60 繰棉0.90</p>		25
棉花 (在來種)	<p>収入ノ部</p> <p>繰棉16.80 棉實1.95 棉桿0.50</p> <p>支出ノ部</p> <p>小作料5.00 公課1.00 種子0.45 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種1.00 間引1.20 中耕除草1.20 收穫1.60 繰棉0.72</p>		19
小麥	<p>収入ノ部</p> <p>小麥8.00 麥桿2.50</p> <p>支出ノ部</p> <p>小作料3.33 公課0.67 種子0.50 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種0.80 中耕除草0.80 收穫1.20</p>		10
粟	<p>収入ノ部</p> <p>粟7.20 粟桿4.50</p> <p>支出ノ部</p> <p>小作料3.33 公課0.67 種子0.30 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種0.80 間引1.20 中耕除草0.80 收穫1.40</p>		11
高粱	<p>収入ノ部</p> <p>高粱7.00 高粱桿3.50</p>		10

棉作ヲ自ラ獎勵スルコトニナル。

第六節 繰棉事業

原棉ハ生産者自ラ繰棉スル場合モアルガ多クハ花行ノ手デ繰棉シラレル、花行ハ其ノ規模ノ大小ニ應ジ、或ハ四、五臺、多キハ一五、六臺ノ繰綿機ヲモツテ居リ、繰棉業ヲ兼業シテ居ル。一般ニ使用サレテ居ル繰綿機ハ、天津カラ移入シタ脚踏式ノ簡單ナモノガ多ク、價格ハ三〇元前後デアツテ一臺ニ一人ノ苦力ガ十二時間勞動デヤツテ居ル。繰棉能力ハ原棉約一五〇斤(十二時間勞動)デアル。要スルニ今日ノ繰棉事業ハ極メテ幼稚無統制デアルカラ、前節ニ述ベタ通り繰棉事業ヲ統制スル事ニヨツテ、現在ノ棉作状態デモ北支棉ノ改良ガ充分行ハレ得ルト同時ニコレヲ一段商品化セシムルコトガ出來ルト思フ。

第七節 他ノ農作物トノ關係

由來北支農作物ハ、自給自足ノ建前ヲトリ、全耕地面積ノ八五%以上ハ小麥、高粱、大豆、玉黍蜀、粟等ノ食料品ヲ耕作シ、尙多量ノ小麥粉ヲ輸入シテ居ル現状デアルカラ棉花耕作助成ニハ、食料問題ノ解決ト不可分ノ關係ニアル。棉花ハ大部分自作農ニヨリ栽培シラレテ居ルガ、時ニハ耕作其他

第三表

北支五省棉花及農作物一畝當り收穫利益比較表

(1)

單位元

品名	摘 要	収入ノ部	支出ノ部	差引益金
棉花 (米棉種)	収入ノ部 繰棉22.50 棉實2.70 棉桿0.60	2580		
	支出ノ部 小作料5.00 公課1.00 種子0.40 肥料4.00 整地0.80 施肥及播種1.20 間引1.20 中耕除草1.20 摘心.60 收穫1.60 繰棉0.90		1790	790
棉花 (在來種)	収入ノ部 繰棉16.80 棉實1.95 棉桿0.50	1925		
	支出ノ部 小作料5.00 公課1.00 種子0.45 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種1.00 間引1.20 中耕除草1.20 收穫1.60 繰棉0.72		1617	308
小麥	収入ノ部 小麥8.00 麥桿2.50	1050		
	支出ノ部 小作料3.33 公課0.67 種子0.50 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種0.80 中耕除草0.80 收穫1.20		1130	-80
粟	収入ノ部 粟7.20 粟桿4.50	1170		
	支出ノ部 小作料3.33 公課0.67 種子0.30 肥料3.20 整地0.80 施肥及播種0.80 間引1.20 中耕除草0.80 收穫1.40		1250	-80
高粱	収入ノ部 高粱7.00 高粱桿3.50	1050		

(2)

品名	摘 要	収入ノ部	支出ノ部	差引益金
高粱	支出ノ部 小作料3.33 公課0.67 種子0.30 肥料1.60 整地0.80 施肥播種0.80 中耕除草0.80 收穫1.40		970	80
大豆	収入ノ部 大豆7.60 豆桿1.50	910		
	支出ノ部 小作料3.33 公課0.67 種子0.40 整地0.80 播種0.40 中耕除草0.80 收穫0.80		720	190
玉蜀黍	収入ノ部 玉蜀黍7.00 桿1.50	850		
	支出ノ部 小作料3.30 公課0.67 種子0.50 肥料1.50 整地0.80 施肥播種0.80 中耕除草0.80 收穫1.40		980	-130
北支ニ於テハ普通作ハ主トシテ年二作制ヲトツテ居ルガ棉花ハ一年一作デアアル、夫故今最モ普通ノ組合セデアアル粟、小麥、大豆ノ二年三作制ト棉花ノ一年作トノ利益ヲ比較スルト下記ノ通りデアアル。				
粟	収入及支出	1170	1250	-80
小麥	" "	1050	1130	-80
大豆	" "	910	720	190
(合 計)				
一ヶ年平均				
		1565	1550	15
米棉種	収入及支出	2580	1790	790
在來棉	" "	1925	1617	318
即チ二年三作ノ普通作ヨリモ一年一作ノ棉花ヲ連作スルガ有利デアアル。				

由來北支農作物ハ、自給自足ノ建前ヲトリ、全耕地面積ノ八五%以上ハ小麥、高粱、大豆、玉黍、粟等ノ食料品ヲ耕作シ、尙多量ノ小麥粉ヲ輸入シテ居ル現状デアアルカラ棉花耕作助成ニハ、食料問題ノ解決ト不可分ノ關係ニアル。棉花ハ大部分自作農ニヨリ栽培シラレテ居ルガ、時ニハ耕作其他

全部ヲ借地人ノ負擔トシ、其ノ收穫利益ヲ地主ト借地人デ折半スル場合モアリ、又全ク小作ヲスルモノモアル。棉田ノ小作料ハ他ノ耕作ヨリ割高ナノガ普通デアルガ地方ニヨリ、又ハ地味ノ良否ニヨリ一定ハシテ居ラヌ。西河、御河地方デハ一畝當リ一ケ年最低三元カラ八元見當デアル。地租ハ一畝當リ一元内外、棉花ノ收穫率ハ豊年作デ、良田ハ實棉百五、六十斤デ、普通ハ百斤カラ百二、三十斤デアル。繰上歩合ハ在來種デ實棉百斤ニ對シ三十一斤カラ三十二斤、米棉ハ二十八斤カラ三十二、三斤トサレテキル。棉花ハ大部分一毛作デ、棉田ニハ他ノ作物ハ普通栽培シナイ。

棉花ト他ノ作物トノ一畝當リ收穫利益ヲ比較セルモノヲ第三表トシテ添付シタ。

第八節 集散地ト輸送機關

河北省棉花集散地ハ大体天津デアルガ、天津ト輿地市場ヲ連絡スル水路ハ、天津ヲ中心トシテ見テ各河道ノ通路方向ヲ基礎トシテ、西河筋、御河筋、東河筋、北河筋ノ四方面ニ大別サレテキルガ、各河川トモ、ソレゾレ固有ノ名稱ヲ有シ、幾多ノ水流ト合シテ天津ニ集マリ白河ニ入ルモノト、東河ノ様一度北塘河ノ下流ニ出テ、更ニ之ヲ溯ツテ又其ノ支流ニ連絡スルト言フ様ナモモアリ、何レモ相當廣範ナ地域ニ亘ツテ交通スルコトガ出來ル。就中御河ハ、山東省臨清カラ衛河ヲ上ツテ河南省道口鎮或ハ新郷マデ、約一千七百支里ニ及ブ舟楫ノ便ガアル。

前ニ述ベタ様ニ、單ニ天津ヲ中心トスル水路ト言フテモ、其ノ交通範圍ハ河北省ノ主要ナ地方ハ勿論遠ク山東西部ヨリ河南北部ニ通ズルモノモアル。

其ノ他天津市場ト輿地市場トノ、荷馬車ニ依ル運輸交通ハ、天津ノ東北、所謂東八縣地方若クハ高陽其ノ他天津近クデ比較的鐵道ニ不便ナ地方トノ連絡交通ニ際シ、數十里若クハ百數十里ヲ、ワザワザ鐵道驛ニ出シテ積替ヘスル手數ヲ省キ且運賃モ制安ニ輸送シ得ラレル便ガアル地方、即チ天津ヲ中心トスル三百方里以内ノ地方ノミニ限ラレ、其ノ他御河筋及西河筋地方ノ集散地ヨリハ、冬季結氷若クハ春夏ノ減水期中モ努メテ鐵道便ヲ利用スルノガ普通デ、荷馬車ハ特殊ノ事情ノナイ限り、各集散地ト鐵道驛、或ハ河筋ニ至ル短距離間ニ利用セラレルニ過ギナイ。

西河、御河或ハ東北河地方共、結氷期又ハ河水ノ減少、枯渴シタ場合ハ何レノ地方モ鐵道ノ便ヲ利用シ、其レ以外、普通ノ場合ニ於テモ、山西棉ノ加キハ船積ノ場合、途中欠斤ガ多イ爲メ、殆ンド全部ハ石家莊デ積替ヘ、鐵道便デ天津ニ輸送シテ居ル。

山東省産棉ハ、鐵道及ビ自動車ノ無イ地方ノ事トテ、濟南行ハ主トシテ、陸路ヲ馬車ニ依ツテ、天津行ハ水路(御河)ニヨリ、青島、上海行ハ濟南迄ハ馬車輸送シテ後津浦膠濟兩鐵道ヲ利用シ、目的地ニ輸送サレテ居ル状態デアアル。輸送機關ニ就キモツト詳説シテ見タイト思フガ他ニ調査委員モアツタカラ避ケルコトニスル。

集散地ト輸送機關

主要集散地	棉產區	終端市場ニ至ル輸送機關
定縣及保定	大清河流域	汽車積又ハ船積
正定及石家莊	滹沱河流域	汽車積又ハ船積
邯鄲及趙縣	滏陽河流域	右ニ同ジ
南宮、臨清連鎮	御河筋	右ニ同ジ 但シ濟南ヘハ馬車ニ依ル
榆次	山西省	汽車積
張店	小清河流域	汽車積青島ヘ
晉各莊、楊村	東北河區	汽車積又ハ船積

第九節 北支棉花輸移出入

北支三省ニ於ケル過去六年間(一九三一年ヨリ一九三六年迄)ノ棉産額一年平均ハ約三百六十萬擔餘デ、輸出ハ我が國ガ其ノ首位ヲ占メテ居ル。輸出棉ハ殆ンド河北省産棉デアアルガ、本年度同省棉

産出廻高百六十萬擔中、天津出廻百五十萬擔ハ内五十萬擔ガ紡績並ニ地場消費高ニ向ケラレ、約百高擔ガ輸移出サレルモノト考ヘラレル。
 尙ホ本年度米棉未曾有ノ增收ト安値ハ到底支那棉ノ歐米向輸出ニ餘地ヲ與ヘナイト思ハレルシ、青島ノ紡績ハ全滅シ、閉鎖シテ居ル上海ノ紡績ハ當分操業ノ見込ミガ立タナイカラ、自然販路ハ本邦向輸出ガアルダケデアル。

然シ日本ノ爲替管理及貿易統制ハ、北支棉ニトツテ大キナ障害トナツテキル。

且内地ノ消費者ハ割安ノ米印棉ニ向フトデアルカラ國策的ナ見地カラ、爲替管理法上特ニ除外例ノ設定ヲ望ム次第デアル。

次ギニ北支ニ於ケル主要貿易港デアル天津及青島ノ棉花輸出入表(第四、五、六、七表)ヲ添付シタ

第四表 天津及青島港外棉輸入高累年表(單位擔)

港名	年次	外 棉 輸 入 高		
		一九三五	一九三四	一九三三
天 津		一、〇九三	三二、八〇八	七、二四〇
青 島		六一、二九六	五五、三七五	一一四、五五二
合 計		六二、三八九	八八、一八三	一二一、七九二
				一九三二
				五〇、八一八
				一六二、〇六〇
				二二二、八七八

第五表 天津及青島港支那棉移入高累年表(單位擔)

港名	年次	支 那 棉 移 入 高		
		一九三五	一九三四	一九三三
天 津		一、九九八	二二、九五六	四一三
青 島		一一五、二三三	八九、五五〇	一一、二二七
合 計		一二七、二三一	一一二、五〇六	一二、六四〇
				一九三二
				二七六
				三一二
				五八八

第六表 青島港及天津港支那棉輸出高累年表(單位擔)

港名	年次	支 那 棉 輸 出 高		
		一九三五	一九三四	一九三三
青 島		二五、一五四	三八	四、九〇七
天 津		三〇九、四三一	二六七、九四二	四五六、九五六
合 計		三三四、五八五	二六七、九八〇	四六一、八六三
				一九三二
				一一、〇三三
				六一九、二九三
				六三一、三二六

第七表 北支棉花輸移出統計明細表(單位數量擔)

仕向地別	昭和十一年		昭和十一年	
	數量	比率	數量	比率
日本	一九一、〇五五	五六、二三%	三六七、〇七三	六七、五二%
朝鮮	二七、一一五	九、四〇	一八、八七四	三、五〇
臺灣	一四一	〇、〇四	一、五二八	〇、二六
關東	四、三七五	一、二九	九、三二七	一、七九
小計	二二二、六八六	六六、九六	三九六、八〇二	七三、〇七
米	三六、五一五	一〇、八三	一〇八、一一七	一九、八八
獨逸	六七、〇三二	一九、五二	二五、七七三	四、六四
其他	九、〇五五	二、六九	一三、二四一	二、四一
對外輸出額合計	三三五、二八八	一〇〇、〇〇	五四三、九三三	一〇〇、〇〇
沿岸移出額	一八七、二六八		二九九、一四二	
輸移出額總計	五二二、五五六		八四三、〇七五	

備考 支那海關統計ニ依リ、數量單位ノ Quintals (百担) ヲ@一、六五三四六八ニテ擔ニ換算シタリ。

「北支」ハ天津、青島、芝罘、秦皇島、龍口及威海衛ノ六港ヲ合計シタルモノガ、昭和十一年度ノ輸出總額中日本始メ

獨逸ニ至ル各國別ノ數字ニ限リ天津及青島ノモノ合計額ナリ。(他ノ四港ノ國別數字ハ未詳ニ付)。沿岸移出額ハ汽船

積荷ノミニテ鐵路貨物ヲ包含セズ。

第十節 從來ノ取引決済法

奥地ニ於ケル各集散地ニハ花行若シクハ花店ト云フ棉花ノ取扱ヒヲ專業トスル者ト又雜貨或ハ雜穀商ノ土產品取扱ヒヲ兼業スルモノトガアツテ、棉花ハ勿論、他ノ土產品ノ產地買付ハ殆ンド全部此ノ機關ノ手ヲ經ル事トナツテ居ル。地方ノ花行ニハ直接天津ニ出張員ヲ置イテ販賣ニ従事スル者ト、外客ノ代理買付ケノミヲヤル者トガアリ、單ニ產地買付ケト云ツテモ、場合ニ依ツテ其ノ事情ヲ異ニスルモノデアルガ、今假リニ之ヲ三者ニ分類スルト

- (1) 奥地ノ花行自身ノ計算ヲ以テ買付ヲナス
- (2) 天津其他ノ地方ヨリ棉花商ガ出張シテ買付ケニ従フ
- (3) 外人商社或ハ紡績筋ヨリ出張買付ケニ従事スル

等トナル。奥地出廻リ集散市場トノ金融決済ハ、原則トシテハ勿論現銀輸送或ハ爲替送金又ハ銀紙幣地方ノ信用アル銀行、銀號、錢莊ノ支票ヲ以テ、從來ヨリ買付方法トシテ居ルガ、途中ノ危險甚ダシク、到底困難デアルタメ萬止ムヲ得ナイ時ノ外ハ一般ニ他ニ安全ナ方法デ、其ノ決済ヲ行フノデアアル即チ先ヅ其ノ買付ケヲ爲サントスル土地ト、天津トノ金融關係ヲ調査シテ、若シ銀號或ハ雜貨商等ノ天津ニ對スル支拂勘定ヲ有スル者ガアレバ、之ニ對シ天津ノ某處デ其ノ金額ヲ相手方ニ支拂フ旨ヲ記

載シタ手形ヲ發行シ、之ト引換ヘニ其ノ金額譲リ受ケテ買付資金ニ充當スル、一種ノ逆爲替式ノ方法ニヨツテ行フ。コレハ滙票ト云ハレテキル。

第十一節 北支棉取引改善策

北支棉ノ品質ハ既ニ紡績用並ニ製棉用トシテ好適セルコトハ充分檢討済ミデアルガ殘ルハ量ノ問題即チ一定規格ニヨツテ用途ニヨル一定數量ヲ揃ヘテ商品化シ得ルヤ否ヤノ問題デアル。茲デ云フ量トハ、一定ノ標準ニ從ツテ多數量ヲ揃ヘ得ル事ヲ前提トシテ纖維ノ撚度、長短、硬軟等ヲ指スノデアツテ、假令品質ダケハドンナニ勝レテキテモ、或ル程度ノ數量ガ揃ヘラレナイ場合ハ、紡績ハ能率關係カラ全ク歡迎シナイ。從ツテ今後北支植棉ノ指導者ガ、棉花ノ規格ヲ數種ニ統一スルコトニ全力ヲ注ガネバナラナイ事ハ論ヲ俟タナイガ、現在ノ様ナ取引機構デハ、棉花ガ農民ノ手ヲ離レテカラ後種々不正手段ニ依テ、整一ヲ傷ケル場合ガ多イ故、此ノ改革ヲ斷行シナケレバ目的ハ達シ得ラレナイ。ココ數年來、米棉種ニ在來種ヲ混入シタ不正棉花デ天津ノ紡績ハ甚シク惱マサレタ經驗ヲモツテキルノデアル。

北支ニ於ケル自作農制ハ、農業ノ本質カラ云ヘバ望マシイガ、ソノ産物ノ方面カラ見レバ均等性アル大農制ニ及バナイ。然シ幸ヒ合作社ト云フモノガ各地ニ組織サレテキルカラ、之ニ其ノ機能ヲ完全ニ

發揮サセタナラ、均等性如何ノ欠陥ハ充分補ヒ得ラレル。ソウシテ今後ニ於ケル棉花取引ノ出發點ハ此ノ合作社カラ始メネバナラス。

即ち地方合作社ガ蒐集操棉シタ社員ノ棉花ヲ其ノ聯合會ニ取り纏メ、コ、デ嚴格ナ検査ヲ行ヒ、標準ヲ定メテ一定ノ包装ヲナシ、後市場ニ送り出す事トナレバ自然中間ノ鐵小奸商ハ排除サレル結果トナル更ニ進ンデ天津等ノ主要地ニ棉花取引所ヲ設ケ、合作社聯合會ノミヲ限ツテ賣方トシ、品質検査ヲ施シテ規格ヲ統一シタ上デ棉花ノ取引ヲ行フコトニスレバ、益々單純化サレテ取引ヲ圓滑ナラシメ好結果ヲ得ラレルコトト思ハレル。

次ギニ又秤制ノ統一ヲ計ラネバナラス。産地デアアル奥地ト、出廻リ集散地、又ハ地方ヲ異ニスルニ從ツテ秤制ガ異リ之ニ依ツテ被ル不利不便ハ相當大キナモノデアル。

又日本側デハ、先ツ天津ニ「日本向輸出棉花検査所」ヲ設ケテ、各地合作社聯合會ト連絡ヲ保チ、毎年一回合作社ニ棉花ノ等級見本ヲ提出サセ、總テ市場ニ送ル棉花ニハ、右見本ニ照合シテ等級ヲ付ケサセル様ニスル。検査所ハ見本ニ從ツテ、各地ノ棉花ヲ比較シ、等級表ヲ作成シテ公表スル(當分ハ等級復雜デ煩瑣デアルカラ、之ヲ五級又ハ六級位ヒニ單純化ス)。水氣ニ關シテハ、支那側ノ規定ニ關係ナク、獨自ノ立場デ九%内外ノ制限ヲ設ケ、事前ニ合作社ニ通達スル。合作社ニ不正行爲ガアツタ場合ハ、其ノ支配下ニアル棉花ヲ等級表カラ削除シ、日本デハ前記等級表カラ削除サレタ棉花ノ輸

入ハ禁止スルカ、又ハ紡績會社デ不買ヲ申合セル。
 合作社ノ活動ヲ援助スルコトニ依ツテ、現在ノ取引機構ハ自然改革サレルガ、紡績原料トシテ、棉花ニ限リナル可ク不正ノ中間商人ノ介入ヲ許サナイ方針ヲ進ミ、取引所成立迄ハ、棉花貨棧ヲ通ジテ、又ハ直接ニ輸出商ト合作社聯合會トノ交渉ヲ獎勵スル。
 合作社ハ信用、販賣等ノ部門ニ分レテキルガ社員ノ持寄ツタ實棉ヲ合作社デ繰棉シ、且等級ヲモ定メ荷造シテ天津市場ニ出シ、運銷處ニ之ヲ販賣サセルト云フノガ從來ノ建前トナツテキル。此ノ方法ガ嚴正ニ行ハレルナラバ、産地ニ於ケル繰棉業者、仲買人、花行及天津市場ニアル貨棧ノ存在ヲ要シナイ譯デ、生産者カラ消費者ヘノ階梯ヲ短縮スルコトニナリ且幾分統制ガトレテ居ル爲メ、品質ノ均等改善モ期待出來ルコトニナル譯デアル。
 尙ホ棉花ノ様ナ世界的商品ノ取扱ニハ、微妙ナ相場ノ動キニ應ジ、潤達自在ノ「オペレーション」ヲ必要トシ、之ガ爲ニハ、長年ノ貴重ノ經驗技術ヲ要スル譯デアアルガ之ニハ棉花「オペレーション」ノ危険ヲ免レル爲ニモ、棉花規格ノ等級統一、生産者カラ消費者ヘノ階梯ヲ短縮、單純化スル見地カラモ取引所ノ新設ヲ要望スル次第デアル。

第十二節 北支棉ノ國內稅及輸移出入關稅

(一) 國 内 稅

現在河北省ニ於テハ秤佣又ハ牙稅ノ名ノ下ニ、從價一分見當ガ課セラレテ居ル。
 但シ天津ニ入市スル際ニハ、更ニ米棉種ニ對シテハ百市斤二十五仙、一擔當リ三十仙見當、在來棉ニ對シテハ二十仙、一擔當リ約二十四仙ノ牙稅ガ徵收セラレルタメ、地方稅ト重複シテ居ル。山東省ニ於テハ、コノ様ナ稅金ハ課サレテキナイコトカラ見テ、一般ニ惡稅視サレ此ノ撤廢ガ要望サレテ居ル。

左ニ棉花ノ輸移出入稅ヲ列記スルト

輸 出 稅	元
一、本 稅	一、八七八
二、附 加 稅	〇、一八九
三、河 工 稅	〇、〇七七
四、碼 頭 稅	〇、〇一一
合 計 (擔當リ)	二、一五五

第九表

省別	資本別	工場名	所在地	廠
		<u>資本別</u>		
		支那資本工場	河北省	5 廠
			山東省	4 廠
			山西省	5 廠
		小計		14 廠
		日本資本工場 (合辦委託ヲ含ム)	河北省	6 廠
			山東省	9 廠
		小計		15 廠
		日本資本工場 計畫中	河北省	7 廠
			山東省	1 廠
		小計		8 廠
		<u>省別</u>		
		河北省		18 廠
		山東省		14 廠
		山西省		5 廠
		總計		37 廠

(註) 革商紗商聯合會十六次編訂、支那紡績工場一覽表青島分ハ本年一月現在華紡調査ニヨル。但シ六月天津ハ最近ノ状態ヲ計上セリ。
糸布ノ出來高消費量ハ天津邦資中備考記載ヲ除キ

註、右ハ本年四月未現在デアルガ青島ノ邦資工場ハ一部新增設ガ完了シタ、六月末現在五九二、〇〇〇鍾トナツテキタガ十二月十九日遂ニ暴虐ナル山東軍ノ手デ全滅ノ慘事ニ遇ツタノハ返ス返スモ遺憾デアル。

増設新設計畫ニ就テハ、日支各社トモ今回ノ事變勃發ノ影響ヲ受ケ何レモ行惱ミノ状態デアル。殊ニ日本側ノ計畫中ニハ、本年末竣工操業開始豫定ノモノガ大部分ヲ占メテ居タ關係上、工場建築中ノモノハ半成ノ儘、土地買付終了後ノモノハ、工事未着手ノ状態デ、此ノ儘結氷期ニハイレバ、空シク一ケ年間遊資スル事トナツテ、非常ナ打撃デアルガ、如何セン、本事變ヲ契期トシテ、北支ノ一般情勢ニ劃期的ナ大變動ヲ見、且ツ新政權ノ樹立ニモ、尙ホ多少ノ時日ヲ要スル状態デ、各工場特ニ邦資工場ノ新增設計畫ニ就テハ、全ク調査ガ不可能デアル。本年二月現在ニ於テ、昨年來支那紡績ブームニ乘ジテ日本紡績會社ノ世評ニ上ツタ天津進出ノ計畫ハ、増設計畫ヲ合スルト年内完成見込ノモノ約三十萬鍾、來年以内ニ於テ完成見込ノモノ六十萬鍾、青島ニ於テハ來春完成見込ノモノ約五十萬鍾計百四十萬鍾ニ及ビ、支那人紡ノ新增設計畫ヲモ含メルト何レモ完成ノ曉ニハ、北支ニハ二百五十萬鍾以上ノ紡績ガ出來ル紙上計畫デアッタ。第九、十、十一表ノ新增設計畫ハ、大体確實性ノアル事變前ノ計畫デアルガ、其ノ一斑ヲ窺フニ足ルト思フ。

第九表

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和十二年四月現在)

省別	資本別	工場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)	一ヶ年 綿糸出來高 (單位捆)	一ヶ年 織布出來高 (千平方碼)	備考
				精紡機	撚糸機	織機臺	精紡機	撚糸機	織機臺	電力	蒸氣力					
	資本別															
	支那資本金工場		河北省 5 廠	107.776	4.200	990	17.756			4.200	2.300	6.304	210.828	59.541	18.341	
			山東省 4 廠	109.444	10.640	740	30.120	2.400	240	2.700	1.900	3.990	197.692	56.628		
			山西省 5 廠	74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964	
	小計		14 廠	291.844	17.152	3.234	47.876	3.904	240	9.252	5.250	16.319	630.420	178.814	58.305	
	日本資本金工場 (合辦委託ヲ含ム)		河北省 6 廠	243.548	7.400	2.500	182.348		6.748	11.800	1.500	12.212	336.952	78.984	19.426	
			山東省 9 廠	523.204	38.762	8.790	250.250		5.100	33.750	11.725	24.582	1,266.908	209.185	239.856	
	小計		15 廠	766.752	46.162	11.290	432.598		11.848	45.550	13.225	36.794	1,603.860	288.169	259.282	
	日本資本金工場 計畫中		河北省 7 廠				310.000		6.400							
			山東省 1 廠				60.000		1.000							
	小計		8 廠				370.000		7.400							
	省別															
	河北省		18 廠	351.324	11.600	3.490	510.104		13.148	16.000	3.800	18.516	547.780	138.525	37.767	
	山東省		14 廠	632.648	49.402	9.530	340.370	2.400	6.340	36.450	13.625	28.572	1,464.600	265.813	239.856	
	山西省		5 廠	74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964	
	總計		37 廠	1,058.596	63.314	14.524	850.474	3.904	19.488	54.802	18.475	53.113	2,234.280	466.983	315.587	

(註) 華商紗商聯合會十六次編訂、支那紡績工場一覽表ヲ參考トセリ。

青島分ハ本年一月現在華紡調査ニヨル。但シ六月末現在ニテハ増設完了シ紡機592.356 撚糸機35.040 織機11.238トナリ居レリ。

天津ハ最近ノ状態ヲ計上セリ。

糸布ノ出來高消費量ハ天津邦資中備考記載ヲ除キ本年三月迄一ヶ年分ヲ計上セリ。

第九表

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和)

省別	資本別	工場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)
				精紡機	撚糸機	織機臺	精紡機	撚糸機	織機臺	電力 KW	蒸氣力 HP		
	<u>資本別</u>												
	支那資本工場		河北省 5 廠	107.776	4.200	990	17.756			4.200	2.300	6.304	210.828
			山東省 4 廠	109.444	10.640	740	30.120	2.400	240	2.700	1.900	3.990	197.692
			山西省 5 廠	74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900
	小計		14 廠	291.844	17.152	3.234	47.876	3.904	240	9.252	5.250	16.319	630.420
	日本資本工場 (合辦委託ヲ含ム)		河北省 6 廠	243.548	7.400	2.500	182.348		6.748	11.800	1.500	12.212	336.952
			山東省 9 廠	523.204	38.762	8.790	250.250		5.100	33.750	11.725	24.582	1.266.908
	小計		15 廠	766.752	46.162	11.290	432.598		11.848	45.550	13.225	36.794	1.603.860
	日本資本工場 計畫中		河北省 7 廠				310.000		6.400				
			山東省 1 廠				60.000		1.000				
	小計		8 廠				370.000		7.400				
	<u>省別</u>												
	河北省		18 廠	351.324	11.600	3.490	510.104		13.148	16.000	3.800	18.516	547.780
	山東省		14 廠	632.648	49.402	9.530	340.370	2.400	6.340	36.450	13.625	28.572	1.464.600
	山西省		5 廠	74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900
	總計		37 廠	1.058.596	63.314	14.524	850.474	3.904	19.488	54.802	18.475	53.113	2.234.280

(註) 革商紗商聯合會十六次編訂、支那紡績工場一覽表ヲ參考トセリ。

青島分ハ本年一月現在華紡調査ニヨル。但シ六月末現在ニテハ増設完了シ紡機592.356 撚糸機35.040 織機11.238トナリ居レリ。

天津ハ最近ノ状態ヲ計上セリ。

糸布ノ出來高消費量ハ天津邦資中備考記載ヲ除キ本年三月迄一ヶ年分ヲ計上セリ。

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和十二年四月現在)

場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)	一ヶ年 綿布出來高 (單位捆)	一ヶ年 織布出來高 (千平方碼)	備考
		精紡機	燃糸機	織機臺	精紡機	燃糸機	織機臺	電力	蒸氣力					
紡織廠	天津河北	35.000		臺 490				KW 1.400	HP 1.500	人 2.350	50.485	13.963	6.282	
第一紡紗廠	天津市海河路	25.232	2.400		12.544			1.000		1.168	35.756	10.334		
製線廠	天津市英租界十九號路	3.920	1.800		5.212			300		320	9.000	2.500		
紡織染廠	石家莊	30.144		500				1.500		2.466	115.587	32.744	12.059	
紗廠	寶抵縣新集鎮	13.480							800					
華新紡織	唐山市	26.800	2.000	500				1.250		1.996	59.448	17.208	13.428	休業中
紡績公司	天津市老鹽坨地	40.820	5.400					1.400	1.500	1.322	80.412	22.863		日支合辦
紡績公司	天津市老鹽坨地	27.028			39.348		748	2.500		694	16.058	4.582		天津紡委託
第六廠	天津市海河路	65.112		1.000	30.000		2.000	2.850		5.300	145.938	21.840	3.485	九月迄八ヶ月間
第七廠	天津市河北小干莊	34.288			63.000		3.000	1.800		1.400	25.412	12.158		六月迄10ヶ月
紡績公司	天津特四區六號路	50.000		1.000	50.000		1.000	2.000		1.500	9.684	333	2.513	五月ヨリ十月迄 六ヶ月間
紗廠	天津六里臺				50.000		1.000							
紡織會社	天津特一區				30.000		700							
紡績廠	天津津區				30.000		700							
紡織會社	天津特三區				50.000		1.000							
紡績會社	天津南開				50.000		1.000							
紡績會社	天津津				50.000		1.000							
綿會社	天津				50.000		1.000							
工場廠五廠		107.776	4.200	990	17.756			4.200	2.300	6.304	210.828	59.541	18.341	
合辦委託共)六廠		243.548	7.400	2.500	182.348		6.748	11.800	1.500	12.212	336.952	78.984	19.426	
計畫中七廠					310.000		6.400							
計十八廠		351.324	11.600	3.490	510.104		13.148	16.000	3.800	18.516	547.780	138.525	37.767	
實公司(魯豐)	濟南北林家橋	28.016							900					
紡績公司	濟南北商埠新家畔	18.000			12.000			500		733	59.292	16.783		
紡織染公司	濟南北商埠	15.384		240	18.120	2.400	240	700	1.000	800	54.000	15.600		
紡織公司廠	青島市外滄口	48.044	10.640	500				1.500		2.457	84.400	24.290		
廠青島支店	青島四方莊	90.400	8.000					8.750	11.725	3.619	233.000	66.000		
紗廠	青島滄口	31.360	1.600	480				1.500		1.539	98.761	18.722	17.166	
第五廠	青島滄口	107.152	9.240	3.218	26.450		1.000	7.500		7.255	312.408	11.819	104.917	
紗廠	青島四方	42.660	3.746	520	47.000		950	1.500		1.659	82.870	28.259	9.720	

第十表

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和十二年四月現)

省別	資本別	工場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)	一ヶ年 綿布出來高 (單位捆)	一ヶ年 織布出來高 (千平方碼)
				精紡機	撚糸機	織機臺	精紡機	撚糸機	織機臺	電力	蒸氣力				
河北省	支那資本	恒源紡織廠	天津河北	35.000		臺490				1.400	1.500	2.350	50.485	13.963	6.282
		北洋商業第一紡紗廠	天津市海河路	25.232	2.400		12.544			1.000		1.168	35.756	10.334	
		達生製線廠	天津市英租界十九號路	3.920	1.800		5.212			300		320	9.000	2.500	
	日本資本	大興紡織染廠	石家莊	30.144		500				1.500		2.466	115.587	32.744	12.059
		寶記紗廠	寶抵縣新集鎮	13.480							800				
		唐山華新紡織	唐山市	26.800	2.000	500				1.250		1.996	59.448	17.208	13.428
		裕大紡績公司	天津市老鹽坨地	40.820	5.400					1.400	1.500	1.322	80.412	22.863	
		天津紡績公司	天津市老鹽坨地	27.028			39.348		748	2.500		694	16.058	4.582	
		大公第六廠	天津市海河路	65.112		1.000	30.000		2.000	2.850		5.300	145.938	21.840	3.485
		大公第七廠	天津市河北小干莊	34.288			63.000		3.000	1.800		1.400	25.412	12.158	
		裕豐紡績公司	天津特四區六號路	50.000		1.000	50.000		1.000	2.000		1.500	9.684	333	2.513
		大康紗廠	天津六里臺				50.000		1.000						
		上海紡織會社	天津特一區				30.000		700						
		双喜紡績廠	天津				30.000		700						
		吳羽紡織會社	天津特三區				50.000		1.000						
		岸和田紡績會社	天津南開				50.000		1.000						
		倉敷紡績會社	天津				50.000		1.000						
		內外綿會社	天津				50.000		1.000						
山東省	支那資本	支那資工場廠五廠		107.776	4.200	990	17.756			4.200	2.300	6.304	210.828	59.541	18.341
		邦資工場(合辦委託共)六廠		243.548	7.400	2.500	182.348		6.748	11.800	1.500	12.212	336.952	78.984	19.426
		同上計畫中七廠					310.000		6.400						
	日本資本	小計十八廠		351.324	11.600	3.490	510.104		13.148	16.000	3.800	18.516	547.780	138.525	37.767
		成大紡績公司(魯豐)	濟南北林家橋	28.016							900				
		成通紡績公司	濟南北商埠新家畔	18.000			12.000			500		733	59.292	16.783	
		仁豐紡織染公司	濟南北商埠	15.384		240	18.120	2.400	240	700	1.000	800	54.000	15.600	
		青島華新紡織公司廠	青島市外滄口	48.044	10.640	500				1.500		2.457	84.400	24.290	
		內外綿紗廠青島支店	青島四方莊	90.400	8.000					8.750	11.725	3.619	233.000	66.000	
		富士紗廠	青島滄口	31.360	1.600	480				1.500		1.539	98.761	18.722	17.166
大公第五廠	青島滄口	107.152	9.240	3.218	26.450		1.000	7.500		7.255	312.408	11.819	104.917		
興隆紗廠	青島下四方	42.660	3.746	520	47.000		950	1.500		1.659	82.870	28.259	9.720		

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和十二年四月現在)

工場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)	一ヶ年 綿布出來高 (單位捆)	一ヶ年 織布出來高 (千平方碼)	備考
		精紡機	撚糸機	織機臺	精紡機	撚糸機	織機臺	電力	蒸氣力					
		鍾	鍾	臺	鍾	鍾	臺	KW	HP	人				
來紗廠	青島滄口	43.632	2.040					3.800		1.446	80.162	22.400		
康紗廠	青島四方	101.192	14.136	2.160	35.000		840	5.000		3.940	272.279	37.112	65.742	
上海紡績會社青島工場	青島四滄路	40.448		720	51.800		1.000	1.800		1.915	90.113	10.197	22.139	
田紡織廠青島工場	青島滄口四滄路	35.640		540	35.000		460	2.600		1.539	85.000	14.676	15.886	
興紡織會社青島工場	青島滄口汾陽路	30.720		1.152	55.000		850	1.300		1.670	12.315		4.286	
谷豐紡織公司	青島滄口四滄路				60.000		1.000							
那資工場四廠		109.444	10.640	240	30.120	2.400	240	2.700	1.900	3.990	197.692	56.628		
那資工場九廠		523.204	38.762	8.790	250.250		5.100	33.750	11.725	24.582	1.266.908	209.185	239.856	
司上計畫中一廠					60.000		1.000							
小計十四廠		632.648	49.402	9.530	340.370	2.400	6.340	36.450	13.625	28.572	1.464.600	265.813	239.856	
華紡織公司	榆次縣北關	41.744	752	480		1.504		1.150	500	2.498	113.477	32.239	10.336	
益成紡織公司	新絳縣三林鎮	18.480	1.040	404				700		1.580	56.614	16.941	10.666	
裕紡織公司	新絳縣南關	8.400	520	168					550	869	30.682	7.662	4.292	
成織染工廠	太原晉生路九號	6.000		252				332		648	21.127	5.803	7.124	
華紡織公司那縣織染廠	那縣北關			200				170		430			5.546	
那資工廠五廠		74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964	
小計五廠		74.624	2.312	1.504		1.504		2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964	

第十一表

北支各省ニ於ケル紡績工場一覽表

(昭和十二年四月現在)

省別	資本別	工場名	所在地	機械設備			新增設計畫			原動力		職工數	一ヶ年 棉花消費高 (單位擔)	一ヶ年 綿布出來高 (單位捆)	一ヶ年 織布出來高 (千平方碼)	備	
				精紡機	燃糸機	織機臺	精紡機	燃糸機	織機臺	電力	蒸氣力						
山東省	日本資本	寶來紗廠	青島滄口	43.632	2.040					3.800		1.446	80.162	22.400			
		大康紗廠	青島四方	101.192	14.136	2.160	35.000		840	5.000		3.940	272.279	37.112	65.742		
		上海紡績會社青島工場	青島四滄路	40.448		720	51.800		1.000	1.800		1.915	90.113	10.197	22.139		
		豐田紡織廠青島工場	青島滄口四滄路	35.640		540	35.000		460	2.600		1.539	85.000	14.676	15.886		
		同興紡織會社青島工場	青島滄口汾陽路	30.720		1.152	55.000		850	1.300		1.670	12.315		4.286		
		裕豐紡織公司	青島滄口四滄路				60.000		1.000								
		支那資工場四廠		109.444	10.640	240	30.120	2.400	240	2.700	1.900	3.990	197.692	56.628			
		邦資工場九廠		523.204	38.762	8.790	250.250		5.100	33.750	11.725	24.582	1.266.908	209.185	239.856		
		同上計畫中一廠					60.000		1.000								
		小計十四廠		632.648	49.402	9.530	340.370	2.400	6.340	36.450	13.625	28.572	1.464.600	265.813	239.856		
	山西省	支那資本	晉華紡織公司	榆次縣北關	41.744	752	480		1.504	1.150	500	2.498	113.477	32.239	10.336		
			大益成紡織公司	新絳縣三林鎮	18.480	1.040	404			700		1.580	56.614	16.941	10.666		
			雍裕紡織公司	新絳縣南關	8.400	520	168					550	869	30.682	7.662	4.292	
			晉成織染工廠	太原晉生路九號	6.000		252			332			648	21.127	5.803	7.124	
晉華紡織公司那縣織染廠			那縣北關			200			170			430			5.546		
支那資工廠五廠				74.624	2.312	1.504		1.504	2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964			
小計五廠		74.624	2.312	1.504		1.504	2.352	1.050	6.025	221.900	62.645	37.964					

第二節 綿糸及綿布生産高

綿糸及綿布生産高ニ就テハ第十三表中、綿糸出來高及綿布出來高欄ニ本年三月迄、一ケ年ノ実績ヲ記載シテオイタガ大綱ミニ出來高ヲ舉ゲルト

第十二表 北支三省綿糸及綿布出來高概算表

	綿糸出來高(俵)	綿布出來高(俵) <small>(一俵一六〇〇平方碼)</small>
河北省	一三八、五〇〇	二三、六〇〇
山東省	二六五、八〇〇	一五〇、〇〇〇
山西省	六二、六〇〇	二三、八〇〇
合計	四六六、九〇〇	一九七、四〇〇

デ、増産豫想ニ就テハ、前記各工場ノ新增設計畫ト正比例スルモノニ付、將來ノ増産豫想ハ困難デアアル

第三節 支那ニ於ケル北支紡織工業ノ地位

全支紡績ニ對スル北支紡績ノ現状ハ、大体ニ、二二%ヲ占メルモノト見テ大差ガナイ。

第十三表 北支並ニ全支紡織工業概要及綿糸、綿布出來高表

全支ニ對スル 百分比	北支 (内日本人紡)	全支 (内日本人紡)	工場數	精紡機 (錠)	撚糸機 (錠)	織機台 (台)	職工數	綿糸出來高 (一ヶ年) (俵)	綿布出來高 (一ヶ年) (平方碼)
一八九%	七〇	一四三		一、五八、六六 (七六、七五)	五九、六三 (三六、五五)	一四、五四 (二、二九)	五、一八	四六、九三	三、五、五七
三三%							三三、八四	二、〇九、三六	一、三九、一四
二八%									
二五%									
三八%									
三九%									
二五%									

一俵一六〇
〇平方碼

全支紡績業ヲ見ルニ、支那人紡績ト外人紡績トニ大別サレルガ、現在上海ニ於ケル英人紡績(紡機二二一、三三六錠撚糸機八、六七〇錠、織機四、〇二一台、會社四工場)ヲ除クト、後ハ盡ク日本人紡績デアアル。ソシテ日本人紡績ハ主トシテ上海(一三四萬錠)、青島(五二萬錠)、天津(二四萬錠)ニ集中シテ居ルガ、今度ノ事變デ、上海ノ邦人紡績業ハ、直接ノ損害ガ僅少デアツタトハ云ヘ、戰火收マツタ後モ、其ノ恢復迄ニハ相當ノ時日ヲ要スルモノト見ラレルカラ、北支殊ニ山西方面ハ、日本紡績業新天地トシテ、大イニ將來アルモノト思ハレル。

本事變後ニ於ケル、在華日本紡績業ノ發展ニツイテハ、イロイロノ問題ガアルコトト思ハレルガ、支

那殊ニ北支ニ於テハ

- A 綿製品ノ大消化力
- B 原棉生産地
- C 低廉ナ生産費
- D 固定資産ノ利用率多大
- E 電力、石炭ノ安價豊富

等ノ理由デ將來更ニ發展ノ餘地ガアルノハ勿論デアアル。ソシテ國策的ナ見地カラシテモ、日本人紡績ノ北支發展ヲ阻止セラレル様ナ事態ガ出來レバ、必ラズ外人紡ノ擡頭、支那紡績ノ伸展ヲモタラシ、カクテハ將來ニナツテ臍ヲ咬ムノ悔ヲ胎スコトニナルカラ大乘の見地ヨリ、或程度迄探算ヲ度外視シテ、在華日本紡績ノ與地進出ト、其ノ發展ヲ企圖スル必要ガアルト思ハレル。日本政府モコレニ對シテハ、特ニ或ル程度ノ保護ヲ與ヘ、開發ヲ助成サレルコトハ、策ノ當ヲ得タモノト信ジラレルノデアアル。

第四節 工手、動力、石炭、水質量

A 工 手(職工)

(イ) 能率

支那人紡績工ノ能率問題ニ就テハ、屢々論議セラレ、各人各様ノ觀察ガアツテ、斷定ハ困難デア
ルガ、現状デハ、日本人工ニ對シテ低能率デアルコトハ論ヲ俟タス。勞働能率ノ低度ナ原因トシテハ

- 一、文化ノ程度低キコト
- 二、工業勞働者ノ技術的訓練不足
- 三、技術指導者ノ不足

等デアル。一般ニ普通教育ガ普及セズ、熟練工ノ養成ニ當ツテ、訓練ニ比較的長時間ヲ要シ、且勤
務ニ當ツテ研究心乏シク、監督ノ隙ヲ偷ミ怠ケル傾向等、色々ナ事情ニ依ツテ能率ノ阻害ヲ來タス
モノト見ラレル。又、日本内地紡績ニ比ベテ長時間勞働ノ爲メ、能率ノ減退ニ影響アルコトハ之レ
亦大キナ原因ニ數ヘラレル。日本デ深夜業廢止後ノ勞働能率向上ハ、既ニ當業者ノ經驗濟ミデア
ルソレデ各工場ニ依リ、設備其他ノ事情デ、一樣デハナイガ、日本ニ較ベテ紡出綿糸二十番手ノ場合
一萬錘當リ職工約三割五分乃至四割近ク多數ノ人員ヲ要シ、織布ニ於テモ、細布織機百台當リ二割
五分乃至三割ノ増加ヲ要スルハ不得止ザルモノト見ラレル。能率向上策トシテハ、之等ノ點ニ善處
シ、殊ニ北支デハ、女工ノ訓練ニ努力スレバ、日本人職工ニ近似スル能率ヲ擧ゲ得ラレルコトト思
フ。

(ロ) 賃金

紡績職工ノ賃金ニ就テハ、既ニ各方面ノ調査、研究ガアルカラ、最近ノ天津紡績工賃ヲ左ニ參考ト
シテ記セバ

紡績工常工	最高	一・六〇 ^幣	最低	二・〇 ^幣	普通	五・五 ^幣
" 小工		六・五		二・〇		五・〇
製糸工		一・七五		二・〇		五・〇

北支紡績地中平均職工賃ノ最高イノハ青島デ、天津ガ之ニ次ギ、一般奥地ノ工場ハ更ニ低賃銀ニ
ナツテ居ル。コレヲ日本内地ニ比ベルト、平均二割五歩乃至三割ノ低給デアルト見ラレ、北支日本
紡績ハ支那人紡績ニ比シ、勿論幾分高給デアアル。

(ハ) 思想

支那人紡績工ハ、思想的ニ從來ハ國民黨ノ指導下ニ在ツタ關係上、一部デハ色々勞働運動的色彩ヲ
帯ビタ行動モアツタガ、一般的ニハ温順デ、命令ニ對シテ反抗シナイ。先年各地デ罷業騒ギノ起ツ
タ原因ハ、一部惡指導者ノ宣傳ニ乗セラレタコトニヨルモノデ、教育並ニ生活程度ノ低イ爲メ、平
常ハ、殆ンド現在ノ紡績工場ノ待遇ニ満足シテ居ル様デアアル。

B 動力

北支紡績工場使用原動力ノ大部分ハ電力ニ依ルノデアアル。北支ニ於ケル電力問題ニ就テハ、地方小電氣會社ノ併合灤河及比永定河ノ水力發電計畫等、劃期的ナ進展途上ニ在ル今日、將來ノ狀勢如何デ、料金ニ多額ノ差異ヲ見ト思フカラ、今輕々ニハ豫想シ難イ。併シナガラ一般ノ趨勢ヨリ見ルモ、從來北支日本紡績デ行ハレテキル自家發電ハ新增設工場ニハ許可サレ難ク、將來ハ電力會社ヨリ買電契約ニヨルノ外ナシト思ハレル。日本ノ豐富ナ水力ニ比シ更ニ低廉ナ石炭ノ產地ヲ背後ニ有スル北支ニ於テハ、從來トテ日本ヨリ約二割五分程度ノ低料金デ發電ガ出來ルカラ、將來買電ノ場合ニモ、日本ヨリ廉價ニ供給ヲ受ケラレルコトガ豫想サレル。

大体现狀デハ、買電ノ場合青島デ「一キロワット」一錢五厘見當、天津デ一錢五厘カラ——一錢八厘、自家發電ノ場合ハ金利消却費ヲ加ヘテ八厘カラ一錢前後トナリ、負荷率ノ關係ヲ見ルト、日本デハ一日十七時間運轉六〇%ニ對シ、青島工場デハ、晝夜連續運轉デハ〇%前後デアアル。何レニシテモ、北支ニ於ケル動力費ハ、日本及南支ニ對シテ、現在、將來共ニ低額デアアルコトハ、疑ヒノナイトコロデアアル。

C 石炭

石炭ハ紡績工業生産費ノ約二割ヲ占メル動力費ノ基礎ヲナスモノデ、北支ニ於ケル石炭埋藏量ハ、

全支ノ約六割ニ達スルカラ、此ノ開發ハ、日本ノ國策トシテモ、最も重要ナルコトハ言ヲ俟タズ。從來ニ於テモ、北支ハ石炭ノ安價ヲモツテ知ラレ、發電費ノ如キモ、日本ノ水力ニ依ルモノヨリ、「低コスト」デアアルコトハ、一ニ石炭ノ廉價ニヨルノデアアル。

儲テ北支ニ於ケル著名ナ炭坑ヲ舉ゲルト

- 井 陘 炭 坑 (河北省獨逸共營)
- 開 灤 炭 坑 (英支合辦)
- 石 門 塞 炭 坑 (河北省)
- 溜 川 炭 坑 (日支合辦魯魯大公司)
- 博 山 炭 坑 (山東省)
- 中 興 炭 坑 (山東省)
- 正 豐 炭 坑 (河北省)
- 門 頭 溝 (河北省)

北支ニ於ケル出炭量ハ、大体一年一千二百萬キロ噸ニ達シ、將來益々増産ノ計畫ガアルカラ、工業用原料炭トシテマコトニ有利デアアル。

今參考迄ニ天津市販小賣炭價ヲ記スト

開 濼 炭 (三號塊炭) 一噸ニ付 一二、〇〇 冲揚渡
 " (二號粉炭) " 一〇、〇〇
 大 同 炭 (無煙、塊炭) " 一八、五〇
 井 陘 炭 (塊 炭) " 一四、〇〇
 " (粉 炭) " 一一、八〇
 尙同一炭種デモ販賣地ニヨツテ原價ニ高低ガアリ、其ノ一例トシテ井陘炭ノ各地ニ於ケル原價ヲ見ルト

第十四表 北支各地ニ於ケル井陘炭原價表

地名	切入炭價格	粉炭價格	塊炭價格
石 家 莊	噸當リ 四・六〇—四・四〇	四・三〇—四・二〇	五・四〇—五・〇〇
天 津	九・七〇—八・七〇	八・六〇—七・七〇	一〇・九〇—九・六〇
保 定	七・〇二—六・六五		八・二〇—八・〇二
北 京	八・二〇—七・七〇	七・三五	九・四〇—九・二〇
煙 臺 (芝罘)	一二・五〇—一二・〇〇	一二・〇〇—一一・〇〇	一四・〇〇—一三・〇〇

(井陘炭坑第十四回總會決定原價)

D 水 質 量 天津邦人紡績デハ、動力用炭トシテ、開濼炭一號粉炭ヲ用ヒ、一噸九弗五〇仙デアル。

北支全般ニ亘ル工業用水ノ調査ニ就テハ、見ルベキ資料ガナイガ、紡績工場用トシテハ、大体所要水質量ヨリモ經費ノ問題デアル。一般ニ河川又ハ井水ニヨルモ、天津等ノ如キハ、冲積層ノ地質デ「クロール」ノ含有量ガ多イ爲メ、此ノ處理設備費ガ固定スルノデ、他地ニ比ベテ單價高トナルノハ致シ方ガナイガ、ソレデモ尙ホ且ツ上水道ニ較ベルト、格段ノ廉價デアル。

左ニ參考ノタメ、天津ニ於ケル水質分析表ノ一例ヲ示セバ

第十五表 天津ニ於ケル水質分析表

清濁	異 臭	反 應	クロール	硫酸	硝酸	亞硝酸	アンモニヤ	カメレオニ消費量	固形分總量	硬 度
澄明	異臭ナシ	PH 六・六	1100	ナシ	痕跡	ナシ	ナシ	六・九六	250.00	28.61

(備考) 數字ハ換算一立中ニ含有スル、珪酸ナリ、硬度ハ獨逸法ニヨル。

北支一帯、殊ニ紡績起業地ハ、殆ンド附近ニ河川ヲ有スルカラ、水量ハ先ヅ十分ニ採取スルコトガ出來、將來新增設工場ノ進出ヲ見ルモ、此ノ點不安ハナイト思ハレル。水質モ地方ニ依ツテ良好ナモノガ有リ、大体設備ニ依ツテハ、綿糸布ノ加工、染色業モ企テ得ラレルデアラウ。尙最近冀東政

府ノ委嘱ニヨリ冀東一帶ヲ調査セシ日本ノ某水道技師ノ説ニヨレバ四十八ヶ所ノボーリング試験ノ成績ハ質量共極メテ良好ナル由又京漢線及山東膠濟線ニ沿フ地域モ水質概シテ良好トノ事デア
ル。

第五節 統稅其他國內稅

統稅ハ一種ノ消費稅トシテ數種ノ主要商品ニ課セラレ、綿糸布モ之ニ含まレレル。

左ニ綿糸布ニ關スル稅率ヲ摘記シテ見ルト

綿 糸	十七番手以下(一俵ニ付)	九、四三四五
"	二十三番手以下(")	一〇、八五
"	三十五番手以下	一四、〇六一
"	三十六番手以上	一八、七四八
細 布	十二封度細布、細綾(四十碼以上ニ付)	三〇六

右ハ國外輸出ノ場合ハ免除サレルコトニナリ、納付濟ノモノハ拂戻サレル。納入ハ工場ヨリ商品搬出
ノ時、買手商人ガ支拂フノガ原則デアルガ、在華邦人紡績會社ハ、別ニ中央政府ト契約シ、製品引渡
シノ際、買手カラ會社側ガ受取り、ソレヲ纏メテ納付シテ居ル。今事變後北支方面カラ南支ニ向ケラ

レル綿糸布ニ對シテハ、既ニ統稅納付濟ミノモノニ對シ、到着地デ再課稅サレルモノデ、本年十月暫
ク辦法ヲ設ケテ、右ノ様ナ場合ハ證明ニ依ツテ拂戻シヲ受ケラレルコトト改正セラレタ。

其他 地捐、房捐等ノ國內稅ガアルガ、大体ニ於テ内地紡績ニ比シ(改正前)二割乃至三割前後ノ負
擔ニ過ギナイ様デアル。

第六節 北支紡績ノ製品並ニ其ノ販路

山東紡績ノ生産綿糸ハ三十二番手以下ノ太番手デアル。十六番手、二十番手が其ノ七割ヲ占メテ
居ルガ、極メテ緩慢ナガラ太系カラ細系ヘノ傾向ヲ辿リツツアルト言ヘル。又綿布ハ細布ガ其ノ九割
ヲ占メ、細綾ガ一割程度デアル。綿糸ノ大部分ハ省内デ消費セラレル。ソノ主ナル消費地ハ濰縣、周
村一帶、品邑一帶ノ土布機業地デ、同村ニ於テ、粗布、細布、四綾ナドノ製織ニアテラレル外、平度
縣、青州、即墨、濟南ノ各地ニモ大量消費セラレルノデアル。一方綿布ハ、山東省内ニオイテ生産額
ノ約四割程度消化セラレ、移輸出サレルモノ六割、仕向地ハ天津ヲ筆頭ニ山西、蒙古、新疆、甘肅等
支那西北部各地ノ外上海、マニラ、アデンニモ及ンデキル。

天津紡績ノ生産綿糸ハ、十六番手ト三十二番手ヲ主トシ、綿布ハ細布ガ九割以上ヲ占メテ居ル。

綿糸ノ主ナル消費地ハ、寶抵東八縣、高陽ノ二地方デ、北京、天津近郊西御河筋ニモ機業地散在シ綿

高陽、石家莊、濟南附近又ハ山海關附近等ニ新設サル可キモノト信ズル。
 尙又最近天津近郊ニ於ケル地價ノ昂騰ハ工場新設敷地ノ獲得ニ非常ナ障害デア
 後ノ一時的ノモノニシテ當然或程度ハ是正サレル事デアラウガ這般ノ水害ノ影響ヨリ見ルモ今後天津
 ニ工場建設ノ絶對的ニ有利ナ條件ヲ見出シ得ヌ限リ奥地ニ進出スル事ガ最モ當ヲ得タモノト思フ。

第三章 綿糸布並ニ人絹糸布ノ貿易

北支ノ人口ハ八千一百万ト云ハレテアルガ、一體何ノ位ヒノ綿糸布需要力ヲ持ツテキルノデア
 ウカ。

一九三六年末世界紡績鍾數ハ約一億五千、世界ノ人口貳拾億八千トシテ、千人當リ七三鍾ノ割合デア
 ル。コレカラ逆算スルト北支ニハ五百九十萬鍾ノ紡績ガアツテモヨイコトニナル。トコロガ現在支那
 四億ノ人口ニ對シテ現存五百萬鍾、人口千人ニ對シテ十二鍾半ヲ存スルノミデアツテ、北支丈ケ
 ヲ見テモ尙ホ五百萬鍾ノ紡績ガ興ツテモヨイコトニナル。
 勿論富ヤ生活ノ程度、其他四圍ノ環境ニヨルコトデアアルカラ、頭カラ斯様ナ壹算ハ許サレヌガ、紡績
 ガコノ程度ニ發達スル迄先ヅ供給不足ハ海外ヨリノ供給ニ待タネバナラヌ。コ、デ北支ハ綿糸布バカ
 リデナク、纖維製品ノ豊富ナ需要力ヲ湛ヘテキルモノト見ラレル。

第一節 北支綿糸布貿易ト需給狀態

茲四、五年來北支ノ正稅通關綿布輸入高ハ、激減步調ヲ示シテキル。即チ一九三二年ニハ、上海
 事變、北支政變等ニヨル外國貿易一般ノ萎縮、一九三三年ニハ依然トシテ日貨排斥ト、五月斷行ノ綿
 布輸入稅引上テ、更ニ減少傾向熄マズ、更ニ一九三四年ニハ關稅改訂ガ行ハレタニ不拘一段減少シタ
 コノ主因ハ極端ナル高關稅政策、國內購買力ノ低下、日貨排斥、國內紡績ノ發達、人絹ノ進出等ガ舉
 ゲラレル。

最近四年間ノ、北支綿布輸入高ハ第十七表ノ如ク大激減ヲ示シ、昨年度及本年度ハ、正稅通關ハ殆
 ド見ルベキモノガナイト思ハレル。(判明シタ資料カラ昨年度天津通關高ノミヲ附記シテ置ク)

第十七表 北支各港綿布輸入高累年表

年次	綿布輸入				
	合計	天津	青島	烟台	其他
一九三二	二七、五六二・五二二	一六、二三五・八六三	一〇、八八〇・八八〇		四四五・七六九
一九三三	一一、六五〇・七六二	四、九〇七・八六〇	六、五三八・五一二		二〇四・三九〇
一九三四	五、五七四・四四四	三、二一四・三四七	二、二二四・五六六		一三五・五三一
一九三五	五、五九五・一四九	二、七八〇・三六九	二、六一五・〇三二		一九九・七四八
一九三六		三六三・八一九			

綿糸ノ輸入高ハ、一九三三年ノ關稅改正ト、支那紡績ノ發達ニヨツテ、全ク輸入ヲ見ナイ様ニナリ
 (統計省略)上海カラノ移入著増ニ依ツテ、北支ノ需要ヲ賄ツテ居ル状態デアアル。
 茲ニ一九三六年度北支ニ於ケル綿糸布需給状態ヲ略記シテ、輸移出入ノ數字ヲ簡單ニ擷ムコトニスル

(一) 綿 糸		(單位俵)
北支紡績生産	輸 移 入 額	四六七、〇〇〇
合 計(供給額)	輸 移 出 額	八六、〇〇〇
北支需要額	輸 移 出 額	五五三、〇〇〇
	輸 移 出 額	二七、〇〇〇
	輸 移 出 額	五二六、〇〇〇
(二) 綿 布		
北支紡績生産	輸 移 入 額	七、九三〇、〇〇〇
冀東輸入額	輸 移 入 額	二、九五〇、〇〇〇
合 計(供給額)	輸 移 出 額	二、八〇〇、〇〇〇 (推定)
	輸 移 出 額	一三、六八〇、〇〇〇
	輸 移 出 額	一、七五〇、〇〇〇

北支 需要 額 一一、九三〇、〇〇〇
 右ニ依ツテ綿糸ハ、單價二四〇圓トスルト、約一億貳千萬圓、綿布單價八圓トスルト、約九千五百萬圓、合計約貳億一千五百萬圓見當ノモノガ北支ノ綿糸布需要額デアアル。尤モ一九三六年度ハ、民國幣制改革、農産物ノ豊作、一般景氣線向上ニヨツテ支那全般ニブームヲ起シ、思惑ト實需増ノ顯著ナモノガアツタカラ、右全需要額ハ、コ、五、七年間トシテハ、上々ノ成績ト見ナケレバナラス。

第二節 背後市場ヨリ見タ天津、青島

元來天津ノ背後市場ト、青島ノ背後市場トハ自ラ截然トシ、輸移入トモ各ブロックヲ形成シテキルカノ様ニ見エル。即チ天津ハ北寧鐵道、京綏線、京漢線、津浦線ニ通ズル要衝ニアルカラ、河北、山西、察哈爾、綏遠及津浦線ニ沿フ山東ノ一部ト、遠クハ寧夏、甘肅、陝西、河南省ヲモ背後ニ擁シテキル。シカルニ青島ハ膠濟鐵道ヲ中心トスル山東省内ヲ主トシ、濟南以南ノ津浦線沿線ヲ背後市場トシテ居ルカラ、兩者ノ市場範圍ハ自然ニ區分サレテキル。

然シナガラ北支開發工作ガ將來如何ニ發展シテ行クカ、目下豫斷ハ許サレヌガ、從來ノ南北從斷交通系統ガ、東西橫斷系統ニ移行シ奥地ト北支各港灣トノ連絡新線ガ敷設サレタナラバ天津、青島ノ背後市場ハ自然異變ヲ來ス事ニ對シ注意シナケレバナラス。日本側デ既ニ敷設權ヲ有スル膠濟線ノ支線又

ハ延長線ガ敷設サレタ曉ニハ、青島ノ背後市場ハ、非常ニ廣濶ニナリ、關稅制度ノ更改ト相マツテ、天津ノ背後市場ガ局限サレテ、天津貿易ハ或ル程度青島ニ移動スルノデハナイカト思ハレル。茲ニ天津ブロックノ集散状態ヲ纏メテ見ルト昨年度ハ

綿	糸	河北省綿糸出來高	十三萬八千俵
	天津移入高		十一萬俵
合	計		二十四萬八千俵
綿布、人絹布		河北省紡績綿布出來高	二萬三千六百俵(一俵一六〇〇平方碼)
	移入高(生地綿布)		十萬五千俵
	"(加工綿布)		八千俵
	天津入荷冀東貿易品(綿布人絹布)		八萬八百俵
合	計		二十一萬七千四百俵
人絹糸	天津入荷冀東貿易品		八萬九千個(二〇〇ポンド入)
總	合	計	五十五萬五千件

杜算デハアルガ一個平均二百四十圓トスレバ一億三、四千萬圓ガ現在天津背後市場ヘノ供給高ト見ラレル。

第三節 冀東貿易

北支貿易系統中、冀東貿易ハ兩三年來重要ナ役割ヲ演ジテキル。一九三五年一月ニ冀東政權ガ確立シテカラ、冀東地區ハ中華民國ノ高關稅ノ桎梏カラ逸脱シテ、一種ノ關稅緩衡地帯ヲ構成スルニ至ツタ。

抑々、冀東貿易ナルモノハ、銀ノ密輸出カラ始ツテ、次第ニ人絹糸布、綿布ノ密輸入ニ及ビ公然海路陸揚ゲガ行ハレルニ及ンデ、遂ニ冀東政府ハ、一九三五年五月國民政府ノ輸入稅率ヲ、一律四分ノ一ニ引下ゲテ斷行シ、南大寺、北載河、留守營、昌黎、冀東沿岸四港ヲ、輸入港ニ指定シ、財政收入ノ一助トスルニ至ツタノデアアル。

カクテ一九三六年、渤海沿岸ノ解氷ト共ニ、冀東方面ヨリ、人絹、砂糖、綿布等、民國高關稅品ノ流入ガ遽ニ激増スルニ至ツタガ、其ノ後高關稅品バカリデナク、日貨一般ニ亘ツテ、ドシドシ流入ヲ見ル様ニナツタ。

冀東特殊貿易品ノ、天津驛流入高ハ夥シイ數量ニ上リ、天津海關ハ全ク無用ノ存在ト迄ナルニ至ツタ國民政府ハコレニ對シ嚴重ナ抗議ヲ爲シ、北支密輸辦法ヲ發布シテ、京漢、津浦兩鐵路ノ適當地點ニ検査所ヲ設ケ、脫稅品トシテ正規ノ課稅ヲ行ハントシタ。然シナガラ冀察政權ノ威令ハ、日本側ト申

中央政府トノ板挾ミトナツテ行ハレス屢次天津附近デ、冀東貿易品抑留問題ヲ惹キ起サントシ、問題ハ次第二轉化シテ、北支ハ關稅問題ヲ巡テ、有力ナ國際問題ト化スルニ至ツタノデアアル。冀東政府當局ハ貿易額ノ公開ヲ避ケテキルカラ、信ズルニ足ル統計ガナク全貌ヲ知ル由モナイガ、天津驛ニ到着シタ冀東貨物中、綿布、人絹布、毛織物ヲ拾ヒ上ゲルト

年次	人絹糸(俵)	綿布、人絹布、毛織物(梱)
一九三五年	三六、七八七	六、六〇九
一九三六年	八九、七二四	八〇、八三九
一九三七年(四月迄)	五、三八二	三、七一四

尙ホ某社調査ニヨル一九三六年三月ヨリ本年二月迄ノ冀東貿易品天津入荷概算ニヨルト、人絹糸ハ二百ボンド入七萬個、人絹布三萬六千俵、綿布八萬二千俵、合計十八萬八千俵トノ事デアアル。事變勃發以來、北寧鐵路ガ軍事輸送ノタメ、冀東沿岸ヨリ天津迄ノ貨車繰ツカズ、冀東貿易ノ全般的杜絶ヲ見、綿布類其ノ他モ全ク輸入杜絶シタガ、九月當初ヨリ、小數ノ貨車繰ツキ、弗々輸入ヲ見始メルニ至ツタ。

第四節 將來ノ北支關稅制度

國民政府ハ、關稅自主權ヲ回收スルト共ニ、一九三三年五月廿二日突如抜打的ニ一般關稅ノ高率引上ゲヲ實施シテ勢カラズ我ガ當業者ヲ驚愕セシメタ。

コノ新關稅ニ於テハ、各品目ニワタツテ、頗ル高率ノ引上ゲガ行ハレテキルガ、就中綿製品關稅ノ引上ゲハ殊ニ甚ダシク、支那紡績工業ノ保護ノ領域ヲ離レテ敢然排日的色彩ヲ帯ビタモノデアッタ。超ヘテ一九三四年、關稅收入ノ減退ニ依リ、己ムナク一部ノ稅率ヲ引下ゲタガ、綿糸布、人絹糸ハ依然トシテ高率ノタメ、輸入杜絶ノ狀態デ今日ニ至ツテ居ル。右ノ狀態デアルカラ、如何ナル方法ニ依ツテモ、密輸ノ行ハレルノハ自然ノ勢デアツテ、冀東貿易ノ生レタノハ決シテ偶然デハナイ。

今次事變ノ勃發前、國民政府ガ、冀察政府ヲツ、イテ冀東貿易ニ彈壓ヲ加ヘタ數々ノ事實カラ推測スルト、事變ノ發生ニハ、日本經濟政策ノ上カラ有力ナ必然性ヲ認メナケレバナラス。既ニ事變ガ發生シタ今日、從來ノ關稅制度ヤ、冀東貿易制度ニ多少ノ修正ヲ加ヘタ位デハ濟マサレズ根本的ニ出直ス必要ガアル。之ガ着手ニハヤガテ確立スルデアラウ政權ト不離ノ關係ガアリ且又將來ノ北支經濟工作ト、至大ノ關聯ヲモツテ居ルカラ此ノ際拙速ヨリモ、充分ナ檢討ヲ加ヘ内地ノ紡績並

ニ人絹工業ノ活路ト北支紡績事業振興ノ調和ヲ計ル如キ制度ノ確立ヲ冀望スル。當局ガ事變後應急的ニ採ツタ當面ノ方策ハ、天津海關收入ヲ、國民政府ニ送附セズ、政權確立迄、日本側ノ満足スル保管方法ヲ講ジテ居ルコト、且色々ノ說モアルガ税率ハ當分現狀維持、但シ軍需品ノ外食料品等十種ニ對シテ、特殊待遇ヲ與ヘルコト、シ、冀東貿易ハ從來通り默認ノ形ヲトツテ居ル。

將來冀東政權ハ、解消サレル運命ニアル事ハ勿論デアルガ、四分ノ一關稅率ニヨル所謂冀東貿易ヲ長ク存續セシメル事ガ果シテ長イ眼デ見テ、利益デアルカドウカ、疑問デアル。大體支那稅率ノ四分ノ一ト云フノモ大シク根據ノナイコトデ、冀東政府ガ全ク便宜上決メタモノニ外ナラナイ、支那稅率ガ不合理デアレバ、ソノ四分ノ一ニシテ冀東ノ稅率モ不合理ナモノト云フ結果ニナルカラ、若シ全面的ニ天津海關ノ稅率ヲ改正スルコトニナレバ、冀東ノ現行稅率ハ不要ノモノトナル故斷然解消サレルベキモノデアルコトハ議論ノ餘地ハナイト思フ。

民國現行稅率ハ勿論多分ニ排目的色彩ヲ有セルタメ、先ヅ第一ニコレヲ是正シ、第二ニ現存紡績業ノ發達ヲ阻害セヌ程度ニ綿布關稅率ヲ引下ゲテ斷行シテ日本品ノ輸入ヲ促進サセルコト、第三ニハ人絹糸布、毛織物ノ稅率ヲ急角度ニ引下ゲ、第四ニハ隣接滿洲國ノ關稅制度ヲ考慮シ、ナル可ク同一水準ニ置ク等ノ根本方針ヲ確立シナケレバナラス。尙コレニ依ル稅收減退ハ、徐々ニ直接稅ヲ以テ、擔稅力アル者ヨリ徵收スルコトガ必要デアル、從來支那ニハ右意味ノ徵稅制度ノ確立シタ部分モアルガ施

行ガ極メテ不徹底デ根本的ニ租稅體系ヲ整備シ施行ニ萬全ヲ期セネバナラス。今將來ノ關稅率ヲ假リニ天津當業者等ガ差詰メ希望スル所ヲ以テ示スト

希望稅率(從價)

- 一、綿 布 二〇% 統稅廢止
- 二、生地綿布 二五%

(右ハコノ稅率ナラバ入貨ノ可能性アリト考ヘタノデハナクテ一般品トノ稅率比較統制上妥當ト考ヘタ譯デアル)

- 三、晒 金 巾 二〇%
- 四、色 染 綿 布 二〇%
- 五、捺 染 綿 布 二二、五%
- 六、雜 綿 布 二二、五%
- 七、人 絹 糸 五〇%
- 八、人 絹 織 物 四〇%
- 人絹毛交織
- 九、人絹綿交織 三五%

デアツテ歸スル所ハ滿洲國現行稅率ト大差ナイモノデアアル。尙又現行海關金單位ハ一兩約製二、二六元ニ當リ稅率ヲ其儘トシ、金單位ヲ元單位ニ改メタナラバ五割五分ノ引下ゲヲ行ツタト同一結果ニナルカラ不合理ナ金建ヲ廢スルト、納稅手續簡捷化ト引下ノ兩目的ヲ達スルコトニナルトモ言ハレテキル。

尙ホ海關納入手續キニ關スル改正意見トシテハ碼建ノ復活、斤建ノ復活、綿糸ノ稅率ヲ俵建トスルコト、從價稅計算ノ簡易化等モ續イテ貿易促進ノ重要事項ト思フ。

昭和十二年十二月二十八日印刷
昭和十三年一月十五日發行 (代謄寫非賣品)

編輯兼發行人 大阪市住吉區住吉町姫松 道 助

印刷人 大阪市東區淡路町三丁目五 河 村 梯 一

印刷所 大阪市東區淡路町三丁目五 河 村 合 名 會 社

發行所 大阪市住吉區住吉町姫松 杉 道 助

終

